

佐久平地域まるごとキャンパス事業

取組に至る背景・事業の目的

- 佐久市における年代別社会動態の推移を見ると、進学等で市外へ転出した若者が戻ってこない状況がある。将来の地域の担い手となりうる若者をいかに地元に着させ、就業させていくかが課題となっている。
- 本事業は、佐久地域の高校生・大学生が地域活動に地域の一員として参加し、活動することで地元への愛着心を醸成し、将来の佐久地域への定着や就業につなげることを目的とする。

事業内容

佐久地域に在住し、又は通学する高校生・大学生等が、市民活動団体・NPO等が提供する活動プログラムに参画し、地域課題を学び、地域の人たちと一緒に考え、自ら行動することで、地域を知り、地元への愛着心を醸成し、将来の佐久地域への定着や就業へつなげる。

- ・活動プログラムの提案募集：5月上旬
14団体14プログラムの提案
- ・参加学生の募集：6月中旬
- ・活動プログラムの実施：8月から2月まで
14プログラム実施 延べ104名が参加
- ・フォーラム（活動報告会）の開催：2月
学生・市民活動団体・一般ほか 109名が参加



【活動報告会の様子】



【プログラム参加の様子】

事業効果

- ① 学校では学べない地域のことを知り、地域の魅力に気づき、多くの学生が今までより佐久地域を好きになり、将来住み続けたいと思うようになった。
- ② 地域の大人たちと一緒に考え、行動することで、多くの学生が今後もまちづくりにつながる地域活動に参加したいと思うようになり、まちを良くしたいという主体性を育てることにつながった。
- ③ 普段、なかなか接点のない学生と地域や市民活動団体・地元企業等が協働することで、学生ならではの発想が生かされ、地域や団体の活動が活性化した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 学校訪問などで高校・大学と密に連携しており、小海高校の2学年生徒に全員参加いただくなど着実に参加者の増加につながっているため、これまでの実績をもとにまだ参加者がいない高校へも積極的な情報提供を行い、引き続き連携強化を図り参加者増加を目指す。
- 令和4年度に初めて地元企業がプログラム提供したことでほかの企業の関心も高まっており、今後も地元企業によるプログラム提供を増やしていくことで、学生が企業を知るきっかけを作り、Uターン就業に直接的に結びつけていく。
- 学校や商工団体・企業など様々な主体と徐々に協力関係を築きつつあり、今後も新たな協力者を増やしていく中で、協働で事業継続できる体制づくりを検討していく。

【選定のポイント】

佐久地域に在住あるいは通学する高校生・大学生等が市民活動団体・NPO等が提供する活動プログラムに参画し、地域課題を住民等と一緒に考え、行動することにより、地元への愛着心の醸成を図った。

今後も本事業を継続し、地元の企業や住民等と若者の関係を深め、若者の佐久地域への定着を進めることが期待される。

団体名 佐久市企画部広報広聴課	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0267-62-3075	事業費	1,599,805円
https://www.city.saku.nagano.jp/	支援金額	1,279,000円
kohokotyo@city.saku.nagano.jp		

上田演劇塾 25 周年記念公演 故郷に文化の風を巻きおこす 事業

取組に至る背景・事業の目的

全国でも例を見ない「子どもたちが出演して、子どもたちに鑑賞してもらう公演を伴う演劇活動」をこれまで 25 年間実施してきた。毎年欠かさずことなく、上田文化会館や創造館・丸子文化会館、上田市内の公民館などを会場に、定期公演を 2～3 回、多い時には時期を分けて 5～6 回の公演を行なってきた。コロナ禍となり、文化関係の活動は制約を受けたばかりでなく、学校生活では、給食の黙食、分散授業やオンライン授業、学校行事の中止・延期が続いた結果、子どもたちの日常生活にも影響が出た。子どもたちの文化活動に空白の時間が生じることによるダメージが生じぬよう、コロナ禍の子どもたちを励ますよう、サントミュージゼ大ホールで 25 周年記念公演を実施することとした。

事業内容

上田地域をテーマにしたオリジナル台本「トッコベトラ子のスーパー弱虫クラブ」を、令和 5 年 1 月に、サントミュージゼ大ホールにて上演した。同時に「写真展・25 年のあゆみ」と、市内高校生のパントマイムやジャグリングも開催し、交流の輪を広げた。

劇の内容は、いじめに悩む桃太郎や金太郎やシンデレラたちを、独鈷山のキツネ(トッコベトラ子)や太郎山のカラスや木たちが励ます内容で、ユーモアあふれるセリフのやり取りに、観客の笑いが印象的であった。市内に現存する全国有数の古木(大六のケヤキ・天神のケヤキ)たちも登場し「いずみ合唱団」が扮する市内の木々たちが「千年の木」を合唱し故郷上田への思いを深めた。



【トッコベトラ子舞台】

事業効果

サントミュージゼ大ホールで、出演者の熱意、大ホールの設備・迫力を生かした美術・照明を大いに活かした公演ができた。公演を観て、市内の古木たちの存在を初めて知り訪れたいとの連絡を多数頂くなど、観客から故郷の魅力が発見できたとの声が多数あった。

また上田市在住の写真家の風景写真をスライドで紹介することで故郷の再発見と感動を呼んだ。

今回の公演により、今後の文化活動の再開に弾みがつくと思われる。今後、様々な社会的変化が起きる可能性もあると思われるが、今回の経験を糧として、時の状況を判断しながら、文化活動を継続する力がついたと思われる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ゼロから始まった「子ども演劇団」は、毎年公演を積み重ねて 25 周年を迎えることが出来た。第 1 回公演では、子どもたちは、ネコに追いかけて舞台を走るだけのネズミ役だったが、今回は子どもたちが主役の公演が出来、セリフも動作も観客から高い評価をいただいた。次年度は、大舞台の経験を土台にメンバーたちが、自分が好きなお話を小さな劇にする取り組みを行い、そして、子どもたちのいる場所、お年寄りのいる場所、ご希望のある所に気軽に顔を出して、ミニ・シアター公演を行い、演劇の魅力を広げることにつなげたい。

【選定のポイント】

上田地域を題材としたオリジナル脚本による演劇や合唱の鑑賞を通じて、大人と子どもたちが地域を知り、文化活動を楽しみ、世代間の文化交流の促進に寄与した。また、演劇塾が子どもたちの居場所となり、活動が自己肯定感の向上にも寄与したことは、地域の子育て・子育て支援の取組としてモデル性・波及性があるといえる。

団体名	NPO 法人上田演劇塾	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	代表 岩下 郁子	事業費	1, 336, 669 円
メール	voice@mtb.biglobe.ne.jp	支援金額	1, 002, 000 円

駒ヶ根市郷土館（旧市庁舎）築 100 年記念事業

取組に至る背景・事業の目的

- 駒ヶ根市郷土館は大正 11 年に建築され、令和 4 年の 10 月に築 100 年を迎えた。当時帝国ホテルの設計にも関わった地元出身の伊藤文四郎工学博士に設計を依頼し、建築様式は近世コロニアル様式で内装に近世ルネッサンス様式を加味した西洋建築の美観を誇る建物として、市の指定有形文化財にも指定されている。
- 貴重な建築物であり一般公開されているにも関わらず、その芸術性への認知度不足や市と共に歩んだ歴史を学ぶ機会が失われ、地元住民の足も遠のき地域に忘れられた存在となっている。
- そこで、駒ヶ根市郷土館 100 周年を記念して、県内でも数少ない大正期の洋風建築である郷土館の築 100 周年記念 DVD の作成と文化芸術振興や歴史教育を目的としたイベントを開催し、地域住民に郷土の建築物及び文化芸術や歴史など、地域の魅力を再発見してもらおう。

事業内容

- 記念 DVD を作成し、YouTube で公開すると共に駅や市役所、イベント時に会場にて放映した。
- 郷土館を中心ポイントとし地域の風景や文化・史跡を歩きながら回るフットパスを実施。
- 駒ヶ根市郷土館を会場に地元の芸術団体によるアートイベントを開催。洋館カフェのように芸術鑑賞や体験と共に地元のお菓子と珈琲を提供した。（演奏会 4 回、ミステリー体験会、朗読会）
- 建築分野で名高い月尾氏を講師に県建築士会上伊那支部の方と駒ヶ根市郷土館の話から源氏の建築物につながる話と建築分野におけるゼロカーボンの取組についての講演会を開催。
- 地元の菓子店と JOCA に協力いただき、洋館に合うお菓子と協力隊珈琲の詰め合わせギフトを作成し、イベントや店舗にて販売、郷土館への来館を促した。



【郷土館でのアートライブ】

事業効果

- イベントを通して多くの方が郷土館を訪れ（フットパス 70 人、アートライブ延べ 135 人、講演会 120 人）、広い世代の方が「歴史と文化」を学ぶ機会となった。
- KOMAGANE アートプランの会、まほろばの里研究会、建築士会上伊那支部、こまがね gift 実行委員会などの団体が協働で事業に取り組んだことで各自の活動の充実と団体間の連携が強まり、地域団体の活動の活性化につながった。
- 記念動画の放映により郷土館の存在が多くの人々の目に触れる機会となった。また、記念動画の評価は高く、事業終了後も駅や市役所での継続した放映を実施することになり、今年度以降も多くの人に郷土館を知ってもらえる機会につながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 郷土館を中心とした協働の企画を、様々な団体が同じ向きと想いで取り組む苦労があった。
- 課題は、歴史的な建物に興味を持つ地域の人々以外へのアプローチで、どのようにその建物や歴史的価値を知ってもらえるかという部分であったが、芸術鑑賞との組み合わせで「初めて郷土館に入館したが建物も素晴らしく来て良かった」などの感想が示すように一定の成果はあった。また動画というかたちで多くの人々の目に触れるなどで対応したが、若年層の参加の少なさや関りは課題である。
- 「今後もこのような取り組みをしてほしい」という声が、郷土館での芸術鑑賞や歴史フットパスでもあったように、定期的に地域の歴史的な建物を様々な形で体験する機会をつくっていきたいと考える。

【選定のポイント】

駒ヶ根市の歴史的建築物である郷土館を会場にイベントを開催することで、今迄、郷土館を”鑑賞する施設”だと思っていた方に”使用する施設”という提案をし、郷土館の活用の幅を広げ、今後の利用率向上を図った。また、異業種と協力し多様なイベントを開催することで、様々な方面からの来客を促し、多くの人に郷土館の歴史的・芸術的価値を周知した。

団体名	KOMAGANE アートプランの会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-3144-9263	事業費	1,702,119円
	goya_matsuzaki@yahoo.co.jp	支援金額	1,358,000円

ながの地域まるごとキャンパス事業

取組に至る背景・事業の目的

15～24歳の転出超過の要因として、高校等に進学すると地域との接点が少なくなり、地域の構成員としての意識が醸成されにくいまま、進学・就職をきっかけに県外に出て行ってしまいう流れができてしまうと考えられる。そのためには、高校生・専門学校生・大学生等のときから地域の一員として地域活動に参加し、地域を知り、学校や家族以外の人間関係をつくり、人や自然の魅力を肌で感じ長野への愛着を醸成することが必要であるため、地元企業・団体等とともに活動・参加できる機会を創ることが未来の地域づくりにつながると考え実施する。

事業内容

長野圏域をまるごと「キャンパス」ととらえ、市民活動団体や企業などが提案する地域活動プログラムに学生が参画する。学生は多数あるプログラムの中から選び、3日以上活動する。これらの活動では、学生の主体性を重んじており、活動を通じて、学生は地域にある人やモノの魅力を再発見し、自分も地域の一員であるという主体性を育むことで、地域への愛着醸成を目指す。

実施期間：2022年4月～2023年3月

参加人数：150人（大学生16人、高校生134人）

プログラム数：35



【活動先で農作業をする】

事業効果

○活動後のアンケート結果

- ・地域活動を通して、地域のヒト・コト・モノの魅力を発見できた、社会課題に関心をもつことができたと答える学生が多くいた。
- ・今後も地域活動に参加したいという意思を持ったという学生が8割を占めた。

○活動終了後も、継続して団体の活動に参加し、自分が発案し企画運営する学生もいた。地域の将来を担う人材の育成につながっている。

○こうした取組が認められ、令和5年度から長野市の事業になることが内定している。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

参加学生たちからは活動を通じて「地域の課題に関心をもった」「魅力に気づくことができた」などの感想があり、一定の成果があった。一方、その学生個々が感じたことを、外部に伝える機会があまりなかったことは反省点でもある。学生たちが自らの言葉で地域の課題や魅力、地域活動の楽しさを伝えることができれば、本事業を通じて若い世代の地域への関心・参画が期待できるのではないか。次年度以降は、参加学生が発信・運営にも携われる機会を増やしていくことにも注力したいと考える。

【選定のポイント】

地域で活動を行う様々な団体や企業と社会課題に関心を持つ学生をつなげ、若者が主体的に地域活動に取り組む機会を創出することで、郷土愛醸成や学びの深化、U I Jターンの推進等に大きく寄与した。その後、長野市の委託事業として継続されているため、発展的に更なる広がりのある取組につながる事業となった。

団体名	ながの地域まるごとキャンパス事業委員会事務局	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	戸井田 由奈	事業費	916,467円
メール	npo@nagano-shimin.net	支援金額	617,000円

介護予防B型住民指導士の初級・中級・上級養成講座開催事業等

取組に至る背景・事業の目的

- 厚生労働省は介護予防や地域づくりの観点から、住民主体による「通いの場」を推進している。一方、「通いの場」を提供できる住民指導者の養成講座や、指導者同士の交流の機会はまだまだ少ない状況にある。
- 住民主体による「通いの場」を提供・運営する住民指導士を養成し、国が提唱する「地域包括ケアシステム」の構築を目指す。また、各市町村の住民指導者団体との交流会を開催し、情報共有を図りながら、住民主体による介護予防事業を担う住民運動を長野県から発信する。(B型住民指導士とは：介護予防・日常生活支援総合事業のうちの介護予防サービスの一つである通所型サービスB事業を、高齢者の特性を理解しリスク管理をしながら安全に企画・運営できると一般社団法人健康福祉広域支援協会が認定した資格である。)

事業内容

- ① 介護予防B型住民指導士の初級・中級・上級養成講座の開催。
年度内に初級・中級・上級の資格を取得できるようプログラムやテキストを作成し、東信地区の地域住民を中心に参加を呼びかけ、講座を実施した。延べ20名の参加者が上級までの課程を修了した。
- ② 介護予防住民指導者フォーラムの開催
先進的な活動団体の取り組みの発表と意見交換を行い、広く行政を巻き込んだ住民指導者による介護予防の取り組みを考える機会を設け、県内各地から120名の住民が参加した。
- ③ 地域の介護予防サービス団体との連絡調整
今年度受講生のほかに、市町村で新たに誕生した住民指導士に対して、教室開催のノウハウについて指導し、今後活動していく介護予防サービス団体への紹介や、地域包括支援センターとの連携、支援事業を行った。



【講義の様子】

事業効果

- 地域での通いの場であるサロン等での活動者、介護予防サービス実践者が20名以上増加した。
- 通所型サービスB事業開催教室が増加した。1市町村で令和5年度から教室開催が決定した。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 新たな介護予防B型住民指導士育成のため事業を継続していく。また、受講生や現在地域で活動している住民指導士のフォローアップ交流会を令和5年9月3日(土)に開催した。
- 今後も住民指導者フォーラムを開催し、介護予防の重要性や、各地域の介護予防の取り組みなどを考え、意見交換できる場を設けていきたい。

【選定のポイント】

住民主体による「通いの場」を提供・運営する住民指導士を養成するため講座を開催するとともに、介護予防住民指導者フォーラムを開催した。

今後も講座を継続するとともに、講座修了者が地域で活躍できるよう支援することが期待される。

団体名	介護予防住民指導者育成支援協議会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	小諸市甲 1068	事業費	1,047,140円
		支援金額	837,000円

北信地域における里親委託等推進事業

取組に至る背景・事業の目的

様々な事業により親元で生活することが難しい子ども達はできるだけ家庭に近い環境で生活することが望ましいとされており、県も「長野県家庭養育推進計画」を策定し里親委託を進めている。この里親制度が広く浸透することを目標に活動しているが、①コロナ禍の感染状況によっては集合型での制度説明が難しい、②現状の制度説明会ではターゲットが「制度にある程度興味がある人」と限定的であることが課題であるため、オンラインを取り入れたハイブリット形式での制度説明会の開催やフリーペーパーなどを活用し広く制度に興味をもってもらえるような活動を推進する。

事業内容

- 里親制度説明会を中心にオンライン環境を整え、会場に足を運ばなくても参加してもらえるようにする。
- 興味深度別に里親制度に触れる機会を作る。すでに興味がある方にはわかりやすい制度説明会を、興味を持つまでに至らない方には親子で楽しめるイベントを開催し、その中で昨年度制作した動画を上映することで、里親制度を知るきっかけを作る。
- 若者や地域住民、公的機関の職員等様々な方に制度説明をする機会を作り、制度が広く世間に知られるよう働きかける。
- 地元フリーペーパーや回覧板などで説明会やイベントの告知を行い、より多くの方に制度を知るきっかけを作る。



【キッズヨガ風景】

事業効果

- オンライン環境が整備されたことで、会場に来ることが難しい希望者にも参加してもらうことができた。多くの人に参加してもらい、児童相談所に寄せられた登録等の相談件数の約3割が当会の活動経路となっている。
- 長野市内の各大学で制度説明をする機会を得て多くの学生に聞いてもらうことができた。これにより制度理解の他に予期せぬ妊娠などの際にも選択肢が広がることを知ってもらえた。また市役所職員にも研修したことにより窓口対応等でも役立っている。
- 地元フリーペーパーや回覧板を活用してイベントや制度説明会の告知をすることで、多くの方に制度があるということを知ってもらうことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今年度は昨年度制作した動画を大いに活用しながら興味深度に合わせて里親制度に触れてもらう説明会やイベントを行ってきた。またコロナ禍にできるだけ左右されず、参加者が可能な環境で制度を理解してもらうこと、できるだけ多くの方に里親制度があるということを知ってもらうこともできた。今年度の活動は工夫した成果が種々のアンケートや児童相談所につながった件数などで出ているので、今後はその広報の方法を一層工夫し、より広く世間に里親制度が広がることを目標としたい。
- 今年度の活動に更なる工夫を加えながら今年度とは違った手法で広報啓発活動をするとともに、既に制度に興味がある方に向け、それをより深めてもらうにはどのような働きかけが必要かを熟慮し、今後の計画を立てていきたいと考えている。

【選定のポイント】

参加者を引き付ける企画を盛り込んだ里親カフェの開催、オンラインやDVDの活用など通じて、地域住民や各団体等が制度について学ぶ機会を創出し、制度を知らなかった地域住民の認知向上や当事者間の連携強化に寄与した事業となった。

団体名 長野県里親支援専門相談員 北信地区連絡会 連絡先 事務局 小池 智江 (児童養護施設 三帰寮) メールアドレス sanki-satooya@email.plala.or.jp	事業タイプ ソフト事業 事業費 410,266円 支援金額 328,000円
---	--

古い着物を活かして楽しむ文化継承イベントの実施 ～第11回 城下町フェスタ企画

取組に至る背景・事業の目的

- 小諸城下町は、古くから県内有数の呉服の町として名を馳せた。着物の町の伝統を生かし、華やかなレンタル着物ではなく、タンスの奥で眠る昔の着物を使って、昔の粋な柄などを楽しみながら、新しい着こなしを提案し流行させたい。
- 着物の町の伝統と、山国の「もったいないの心」を伝えるような取り組みを広げるためのイベントを、今年の城下町フェスタで仕掛ける。

事業内容

- 1 「古着物をいかしたおしゃれ」提案募集～選考
 - ① 「着物で小諸城下町フォトコンテスト」の企画づくり
着物に関わる事業者、作家、愛好家で「フォトコンテスト」と「キモノでフェスタ」（フェスタにキモノで来ると各店で特典がある）の企画を練った。
 - ② 参加よびかけの広報の作成・配布、ネットでの広報
フォトコンとキモノでフェスタのチラシ・ポスターの配布、SNS等での参加呼びかけを進めた。
 - ③ 様々な賞の設定及び選考・授与
92点の応募の中から選定し、商品等を授与した。
- 2 城下町フェスタの実施
伝統建築の空き店舗や公共施設をつかって、13の特設ギャラリー&ショップを巡り歩いていただく城下町フェスタの企画実施を進めた。
 - ① 城下町フェスタの広報
チラシ、ポスター、SNSでの発信を行った。
 - ② 城下町フェスタの開催（9月22日、23日、24日、25日）
キモノ企画により、着物姿の方も多く、華やかな雰囲気イベントとして実施することができた。



【本陣主屋での展示】



【金賞を受賞した作品】

事業効果

城下町フェスタは、4日間で2,000人程度の来訪者があった。新聞各社が、今回の新しい話題である「キモノでフェスタ」「フォトコンテスト」を中心に報道をしてくれた。それにより、着物の似合う町小諸をPRすることができた。また、地元の呉服店などが、今の若い方達も着物に関心があることを実感し、新しい着物販売のアイデアを得ることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今後も、着物を着て参加できるイベントとして城下町フェスタを実施し、着物のまち小諸を定着させて行きたい。

【選定のポイント】

城下町として栄えた小諸で、歴史的建造物を活かした城下町フェスタや、着物のフォトコンテストを開催し、文化の承継や観光商業振興に寄与した。

今後も着物フォトコンテストの開催等を通じた文化承継や小諸城下町の魅力発信が期待される。

団体名	城下町にぎわい協議会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	長野県小諸市本町3-1-4	事業費	569,459円
		支援金額	454,000円

蚕都上田で室内楽を織る 蚕都上田・リベラルアーツ音楽祭 事業

取組に至る背景・事業の目的

古くは、奈良時代に信濃国分寺が建てられ、鎌倉時代には“信州の学海”と遠方からも学問を修めに多くの人が訪れ、近代では、農民美術や児童自由画運動や、地方一般の民衆が自由に大学教育を受ける機会を得るための自由大学運動が起こるなど、学びや芸術において多彩なバックグラウンドを持つ上田地域であるが、現在の芸術文化の点においては、長野市や松本市に及んでいない状況にある。本事業では、クラシック音楽を「聴く文化」を育てることをきっかけとし、文化的なものを全般に興味や関心を持つ人を増やし、上田地域の芸術文化レベルの向上を目指す。また、文化を通して人が繋がることで、地域全体に明るさと活気が生まれることを目的とする。

これまで、蚕都として栄えいち早く横浜から西洋文化が入ってきたという上田地域の歴史と、西洋音楽の出会いをテーマにコンサートと講座の実施（支援金1年目）や、「非日常空間で、室内楽の体験をする」をテーマに、生演奏を古民家で実施し市民がクラシック音楽に身近にふれる機会を創出する事業（支援金2年目）など実施してきた。これらを経て、支援金事業の集大成となる3年目には、「音楽祭」と銘打ち、難しいと思われがちクラシック音楽の面白さを知ってもらえるよう、朗読や演劇要素を含めたストーリー性のあるコンサートや、弦楽器奏者だけによる弦の豊かな響きを体感するコンサート、市民によるリコーダーアンサンブルへの参加など、一方的にならない、上田地域らしい「学び的な形」としての音楽祭を実施した。

事業内容

・7月「自由大学誕生から100年 蚕都上田で市民が創る音楽祭スタートイベント」

クラシック音楽鑑賞の他、蚕都として栄えた時代の上田の町の様子に関する朗読や、上田自由大学誕生についての講演、島崎藤村の詩やエッセイの鑑賞を実施。

・8月「弦楽の響きを詩とともに 22人の弦楽アンサンブル」

宇宙の広がりと思わせる純正律の響きという弦楽器の魅力を味わい体感できるコンサートを実施。長野県出身者を中心に組織されているアンサンブルによって、ホールに音色を響かせた。また谷川俊太郎の詩『音楽の肖像』の朗読により作曲家を身近に感じつつ、その作品を原曲で鑑賞した。

・9月「ストーリー・コンサート『不屈の人 ベートーヴェンの軌跡』」

伝記を読むようにクラシック音楽を聴く、という形をとり、構えることなくベートーヴェンの作品を自然に、かつじっくりと味わえるように実施。

・10月「ストーリー・コンサート『バッハ 王の音楽』」

伝記を読むようにクラシック音楽を聴く、第2弾は、音楽の父と呼ばれているバッハをテーマとして実施。名曲「音楽の捧げもの」に隠されたフリードリヒ王との逸話を基にコンサートを進めた。フリードリヒが音楽を愛しフルートも奏し作曲もしていたことから、フルートを交えた室内楽を取り上げた。

・11月「リコーダーで市民と創るシェイクスピアの音楽『ロミオとジュリエット リコーダーの音色が聴こえるよ』」

シェイクスピア時代にリコーダー音楽が栄えていたことを起点とし全体を構成。プロ俳優による「ロミオとジュリエット」劇中に市民参加のリコーダーアンサンブルを挿入。

生演奏を入れることで役者の生の息遣いと、音楽とが生き生きと劇を盛り上げた。



【バッハの音楽をじっくりと鑑賞】

事業効果

大規模な公演1回ではなく、サントミューゼ小ホールでの公演を繰り返し行うことにより、新しい人が参加する機会が増えていった。また、朗読やリコーダー、演劇という要素を取り入れたことで、来場者の幅が広がり、同時にこれまでのクラシック音楽の鑑賞とは異なるアプローチでその魅力を伝えることができた。音楽祭に来ていただいた観客は計582名。出演側に参加した市民は計19名、運営に携わった市民は計25名となった。事業の多くを市民が担って創り上げたことは、当団体に限らず地域の自信にもつながり、何より活動が継続していく原動力となったと思われる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

コンサートの内容や出演者の幅を広げていること、関連イベントの開催など、出来るだけ新しい人が参加出来る内容となるよう工夫してきた。その上で活動資金を得ることが活動の中でも一番の課題となっているので、今後はこの点に本格的に取組んでいきたい。

【選定のポイント】支援金を活用した3年間で、様々な工夫を凝らし事業を計画・実施した。団体が掲げる高い目標の実現に向け、内容には常に発展が見られた。このように高い熱意と実行性は、他の良い模範になると考えられる。

団体名：クラシック音楽に親しむ講座の会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先：代表 和田みどり	事業費	3,669,910円
メール：maisy40@pol2.ueda.ne.jp	支援金額	2,481,000円

諏訪地域の文化・自然を伝えるための資料の作成、普及事業

取組に至る背景・事業の目的

当プロジェクトは、平成28年(2016年)の御柱の年に、小学校の読み聞かせボランティアやイラストレーター、図書館司書が、子供たちに地域の文化や自然を分かりやすく伝えようと集まり始まった。一般向けに書かれた地域資料はいくつかあるが、子供向けに書かれたものが少なかったため、読み聞かせボランティアや親なども利用しやすい作品を作ることを目的に考えた。4年にわたり諏訪地域の子供たち(未来の担い手)に地域の文化を受け渡すこと、専門家の貴重な資料や学術データを一般化して地域の皆さんを繋ぐことを目指し、紙芝居を作成し、読み聞かせ会を行ってきた。またコロナ禍で読み聞かせに行かれない施設などへの普及のために、DVDの作成を行った。

事業内容

- 紙芝居の取材、作成、販売事業
 - ・〈諏訪の文化を伝える紙芝居〉シリーズ8作品のうち、3作目からの5作品各150部を元気づくり支援金を得て作成した。作成にあたっては、神社の宮司や博物館の学芸員などに取材を行い、参考資料なども文末に記載している。
- 紙芝居の読み聞かせの収録、DVD2枚組 作成 200部
 - 紙芝居7作目までの読み聞かせをDVDに収録した。
 - すわっチャオにて収録、MARUKA企画に編集依頼した。
- 紙芝居の読み聞かせ・普及事業
 - ・4年間の間に諏訪市や下諏訪町の図書館で読み聞かせ会を企画、小平陽子さんの個展などでも読み聞かせ会を行った。



【DVD作成の様子】

事業効果

- ・プロジェクトで作成した紙芝居8作品は諏訪地域の公共図書館7館、また諏訪市や岡谷市などの小中学校に幅広く納品し、郷土の総合学習などに利用して頂いている。
- ・DVDは公共図書館、花田養護学校などに寄贈を行った。コロナ禍で読み聞かせすることができなかった場所にも、諏訪地域の自然や文化を伝える手段を作ることができた。
- ・コロナ禍を含む4年の間に、セラ真澄でのお話会2回、公共図書館でのお話会2回、他イラストレーターの小平陽子個展でのお話会や地域の公民館活動での読み聞かせ、小学校の朝読での読み聞かせなど、会員が方方で紙芝居を利用し、地域文化を伝えてきた。
- ・紙芝居を作成する中で、神社の宮司や諏訪地域から長和町にかけての博物館の学芸員さんとのつながりができ、さらに「龍神プロジェクト」の絵本や「諏訪プレミアム」のソノリティカードなど、他の企画へと作製活動が広がっていった。
- ・読み聞かせ部分も公民館講座やロータリークラブなど、依頼を受けて活動する場面が増えた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・紙芝居の作成に関して、神社の宮司や博物館の学芸員に協力をお願いし、文・絵を簡潔にまとめることに苦労した。正確さに気をつけ、修正を重ねて作り上げた。
- ・小学校の読み聞かせボランティアを主体としているため、資金繰りが大変であった。
- ・読み聞かせDVDは、プロジェクトの集大成的な作品となった。昨年後半3作品の収録を行い、全ての紙芝居を動画に編集することができた。伝えたい民話や伝承が、諏訪地域にはまだ数多く残っている。どのような形であれば引き続き作成を行えるか検討中である。今後もオリジナル作品を作成しながら、資料と人、地域を結んでいきたい。

【選定のポイント】

諏訪地域の文化・自然を分かりやすく伝える工夫がされた紙芝居、DVDにより、読み聞かせを各地で行うことで、地域の文化や魅力の次世代へ伝承につながった。他企画とも連携するなどしており、事業の今後の広がりが期待される。

団体名	スワンプロジェクト (岡谷市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-23-3116 (株)宮坂製糸所内)	事業費	682,955円
メール	silkfact@po29.lcv.ne.jp	支援金額	446,000円

諏訪地域日本遺産活用促進ウォーキングガイド作成事業（第三年次）

取組に至る背景・事業の目的

日本遺産#061「星降る中部高地の縄文世界」が認定されて5年目となり自走化が求められる段階となっている。日本遺産の地域への定着を図るために、住民自らの取組みや、見学・学習のためのツールの必要性が増大している。そこで日本遺産の構成文化財となる遺物・遺跡や史跡、その周辺にある様々な文化遺産を分かりやすく紹介し、まち歩き・ムラ歩きガイド役となるような小冊子が住民や観光客が散策する際に役に立つと考え、本事業を三年間実施することとした。

日本遺産を中心とするこの地域の縄文文化は、地域性を形づくる「歴史的環境」の一つであり、移住促進のための重要ファクターでもある。歴史的環境を体感し地域に親しみを感じ楽しむことができるよう、持ち歩きに便利な「ウォーキングガイド」を作成し広く配布することとした。

事業内容

- 日本遺産ウォーキングガイド「あのスゴイお宝が出たのはココです03号」の発行
 - ・一昨年の01号、昨年の02号に続き、六市町村ごとに新たなコースを設定した03号を作成しイラストマップによる見どころ紹介と散策コースの提示、代表的遺物（土器など）を紹介
- 01号・02号を利用した「お試しガイドウォーク」を実施
 - ・一般参加者を案内する「お試しガイドウォーク」を開催し、ガイドブックの活用方法を具体的に提示
- 掲載遺物を紹介する「YouTube トーク番組」の配信
 - ・執筆者（市町村学芸員）を迎えた番組2本を作成し一般配信



【ウォーキングガイド01～03】

事業効果

- ・諏訪地域に豊かな「縄文文化」が存在したことは住民や観光客にとって地域の魅力の大きな要素となっている。「ウォーキングガイド」は楽しみながらそれを再確認するためのツールとなった。
- ・「ウォーキングガイド」を住民・観光客に無償配布した。歩いて回れるモデルコースの提示により、日本遺産を楽しみながら学べるとともに、周辺の観光スポットへの波及効果もあったと思われる。
- ・その他のスポットをマップに加えることにより、「縄文の里に住む現代の人々の営み」もまた日本遺産の「背景要素」として浮かび上がるようになった。身近な存在としての日本遺産を、観光客にも地域住民にも意識付けする効果があった。
- ・配布は市町村博物館等を通じて行ったが、徐々に人気が高まり01号はすでに在庫切れとなった。
- ・「お試しガイドウォーク」の実施により、本ガイドブックの活用方法を提示することができた。
- ・「YouTube トーク番組」配信で、QRコード「もっと詳しく」バナーの意義を視覚的に提示できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

縄文に関するガイドブックは数多く発行されているが、今回の「ウォーキングガイド」は実際に有名な土器や土偶が出土した遺跡の現地を訪れて、周辺遺跡も含めて歩いて散策することを前提に編集した。そのため親しみやすいイラストマップをベースに、お勧めコース・遺跡・遺物・見どころ・周辺スポットなどをすべてイラストで盛り込み、文字情報はできるだけ少なく絞り込んで見やすく使いやすいガイドが出来上がった。写真紹介する遺物も市町村ごと1点のみに絞ったが、より詳しい情報はQRコードでジャンプできるページをWeb上に用意した。「お試しガイドウォーク」と「YouTube トーク番組」によりウォーキングガイドの拡張性を提示することができ、今後の活用や更なる展開のヒントとなった。

【選定のポイント】

縄文遺跡等のガイドブックに「ウォーキング」という要素を加えることで、地域資源である縄文文化の魅力や新たな楽しみ方を地域に広く提示した点を評価した。今後も作成した冊子を活用した更なる取組の発展や、日本遺産の地域への定着が期待される。

団体名	一般社団法人大昔調査会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	TEL 090-8328-2544	事業費	835,880円
HP	https://www.big-advance.site/s/129/1672	支援金額	668,000円
Mail	oomukashichousakai@gmail.com		

御柱祭りを契機とした「乙事学」プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

富士見町の乙事地区は縄文時代にルーツを持つ長い歴史を持つ古村である。先人の尽力により、数多くの史跡や文化財を有している一方で、昨今の生活様式の激変の中で、史跡・文化財等に関する世代間の伝承が途切れる危機に瀕している。さらに、コロナ禍の中で地域内コミュニケーションが困難である状況の中では、日常の生活および災害時の助け合いのため、多くの人がスマホ等のITが活用できる環境整備が必要不可欠である。そこで、今年(R4)の御柱祭りを契機として、「乙事学推進プロジェクトチーム」を結成し、乙事学を推進する。また乙事諏訪神社御柱小宮祭を契機に、子どもたちや若い世代への歴史・文化への関心を高め、伝統技術・工法の継承の機会をつくり、より多くの住民の参加による御柱祭開催の中で成果を共有し、次世代に繋いでいく。

事業内容

- 1 乙事学を通じた文化・歴史保全、高齢者の介護予防、防災まちづくりの一体的推進
 - ・乙事学事業推進会議の開催(8回) ・乙事の歴史と文化の聞き取り、お話し会、歴史、文化資産巡り(5回)(20名) ・昔の暮らしや取り組みの戸別調査(6回) ・乙事の歴史家によるお話し会(2回)(のべ50名参加) ・乙事学フォーラム開催(3/12開催、80名参加) ・ホームページ開設
- 2 図鑑等作成および乙事諏訪社御柱祭の木枝敷作成と伝統技術継承
 - ・歴史研究者や地域の方から聞き取りを行い、乙事図鑑、マップ、紙芝居を作成した。
 - ・小学生向けワークショップ開催(8/14) ・乙事諏訪神社御柱祭(9/23)木遣り台の3台設置。
 - ・木遣り台の解体と撤収(11/30) 町内井戸尻考古館へ搬送と小型木遣り台は区役所前設置



【乙事学フォーラムの様子、紙芝居】

事業効果

- ・乙事区民の文化・歴史等に関心をもち、地域づくりや防災まちづくりに関心を持つ区民の増大
- 目標 R4 年度 乙事区世帯の20%の参加、実績 約154人/681人(乙事区民)=23% (プロジェクトチーム&歴史家・聞き取り諸先輩方(24名)乙事学のお話し会(50名)、乙事区の歴史・文化資産巡り(20名)、伝統技術継承ワークショップの参加者数(20名)、乙事学フォーラムの参加者(80名)、先人が苦労して建設した通学路にかかる紙芝居を作成し発表した。子供たち向けに歴史を発信する手法も整備した。
- ・乙事の歴史・文化・暮らし資産50件を含んだ乙事学図鑑製本版を全戸配布、公共施設等への寄付。
- ・乙事ホームページを開設し、乙事新聞、乙事情報、乙事お宝図鑑とマップ、防災マップを公開した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

コロナ対策の多種多様な制約のなかで本プロジェクトを進めざるを得なかったが区民の皆様の温かいご支援とIT技術の駆使などにより、目標を達成できた。また本成果を活用し、乙事区の公民館活動、こども育成会、地区社協等の活動と連携し、老若男女の方々に乙事区の歴史や文化を親しむ史跡巡りや紙芝居開催等のイベントを開催していく。これにより歴史・文化の継承を通じ、乙事地域への愛着を高め、乙事地域を活性化する取り組みへ発展させていきたい。石造物調査や他の分野での文献整理など、さらなる歴史・文化の継承の調査やまとめを行い、図鑑、マップ、ホームページの充実を図っていく。

【選定のポイント】

多くの区民が関わりながら作成した乙事区お宝図鑑、乙事お宝マップの活用を図ることで、地域の魅力を発掘、共有することができており、今後の地域活動への活用が期待される。

団体名	富士見町 乙事区	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	TEL 0266-62-2278	事業費	1,922,680円
HP	https://okkoto.jp	支援金額	1,498,000円
Mail	okkotoyakuba@gmail.com		

伊那市中学生キャリアフェス2022事業

取組に至る背景・事業の目的

- 伊那市への愛着を深め、将来伊那市を支える人材を育成するため、伊那市キャリア教育推進委員会を設置し、産学官協働で幼児期から発達段階に応じたキャリア教育を行っている。
- この教育を推進するための活動の中で、「地域を知り」、「地域の人とふれあい」、「地域の未来を考える」機会として、伊那市中学生キャリアフェス実行委員会を組織し、市内全中学2年生を対象に「伊那市中学生キャリアフェス」を開催。
- 地元の歴史・文化・仕事を知り、多くの大人たちと出会うことにより、地元の素晴らしさや伊那市で生活することの喜びを中学生という早い段階で知ってもらい、この体験が将来「地元に戻る」「伊那市で働く」という選択するきっかけになるものとする。
- また、キャリアフェスに関わることにより、子どもだけでなく大人たちも郷土への想いを更に深める機会となり、次世代育成への関心・成果が高まることが期待される。

事業内容

- 伊那市中学生キャリアフェス2022
 開催日時：令和4年11月10日（木）
 開催場所：エレコム・ロジテックアリーナ（伊那市民体育館）
 及び武道館
 対象者：市内全中学2年生
 （市内6中学校+伊那養護学校中学部の生徒）
 参加生徒数：582人
 出展団体等数：78（うち7はオンライン出展）
 伊那市、伊那谷の多種多様な事業所、団体等がブースを構え、中学生に向けて自社のこと、働くということ、伊那市に対する想いなどを体験談や実演などを交えて伝えていただいた。



【 当日の集合写真 】

事業効果

- 子どもたちが、伊那市への愛着を深め、将来伊那市を支える人材の育成につながった。
 （生徒の感想から：伊那市にこんな職場があるとは思わなかったし、知らなかった知識を知ることができた。）
- 参加した大人たちにとっても、自らが働く企業（事業所）や伊那市に暮らすことの素晴らしさを再認識するとともに、次世代の担い手となる人材の育成に関心を持つ機会となった。
 （出展者の感想から：大人も刺激を受け、また地域のために頑張ろうと思える機会になった。）
- 同じ地域に住んでいる者同士、子どもと大人の垣根を超えて関われる時間の大切さを実感する機会となった。
 （生徒・出展者の感想から：こんなにも地域のことを思っている大人たちが沢山いることを知ることができた。）

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 感染症の影響により、過去2年をオンライン開催としたことから、3年ぶりの対面方式での開催となった。関係者の人事異動などにより過去のノウハウが薄れる中、再度一から創り上げ、万全の感染症対策を施しつつ、一部オンラインを併用しての開催には大変な労力を要した。
- 一部の生徒や実行委員に負担が集中してしまう傾向にあるので、改善が必要と感じている。
- 将来地域を担い、継承してくれる人材を育てるため、地域で育つ子どもたちが、たくさんの大人と出会い、生き方を知り、考え、自分の未来につなげて生かしていけるような経験ができる機会として、今後も更に進化発展させ、継続して開催していきたい。

【選定のポイント】

中学生が地元の大人や企業の魅力を知ること、地元の就職も視野に入れたキャリア形成について考える契機になるとともに、参加企業側にとっても次世代育成の機会として評価が高く、今後も発展的な事業展開が期待できる。また、産学官連携による実行委員会に生徒も加わって事業が企画・運営されるなど、地域が一体となった取組となっている。

団体名 伊那市中学生キャリアフェス実行委員会 連絡先 0265-78-4111 gak@inacity.jp	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">事業タイプ</td> <td>ソフト事業</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>1,715,154円</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>1,025,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト事業	事業費	1,715,154円	支援金額	1,025,000円
事業タイプ	ソフト事業						
事業費	1,715,154円						
支援金額	1,025,000円						

北大出 探検・発見・伝えんといけん事業

取組に至る背景・事業の目的

- 北大出地区は昭和 50 年代以降急速な開発が進み、農村風景や暮らしぶりが大きく変貌してきた。また、近年の少子高齢化の波を受け、空き家の増加や古民家の取り壊しも進んでいる。これらの要因により、北大出の歴史や文化、民族を語る上で貴重な史資料が失われつつある。
- そこで住民有志が北大出探訪会を結成し、住民に北大出の魅力を再発見してもらうため、史資料の探訪を行い、区民に伝えるための啓発活動を実施してきた。
- 一方、若年層の都市部への流出が続き、神明神社の祭りに伴う御舟の催事の担い手不足等、区内の身近な歴史や文化の継承も見通しが暗い。また、近年多発する区内での自然災害に驚かされ、地形や断層、水系などに対する関心が高まってきている。
- そのため、自然、歴史、民俗、伝統文化などの地域の特色を幅広く再発見すると共に、それらを伝えていく人材育成の契機として、地域の子どもから年配者まで世代を超えた探訪会やワークショップ等を実施する。

事業内容

- 区内探訪会（2回）
地域特有の歴史や民俗、自然や災害の歴史を伝える場所や素材の探訪を実施
※事前に地元小学校の高学年児童へのレクチャーを実施
- 北大出探訪マップ作成ワークショップ
探訪マップやガイドブックの内容や構成について、親しみやすく、読みやすいものになるように意見交換を実施
- 探訪マップ・ガイドブックを作成し、区内の全戸、小学校（児童・教職員）、協賛事業所、店舗などへ配布を実施
- 作成した探訪マップを活用したツアーを実施
- 北大出地域の歴史に関連して、古い墓塔や供養塔を中心に、専門家による講演会を開催



【 区内探訪ツアー 】

事業効果

- 地元小学校の理解を得て、地元小学校へのレクチャーや探訪マップ、ガイドブックの配布等を行ったことにより、子ども達や教職員の関心を高める機会となった。また、今後の授業での取組が期待できる。
- 探訪会や探訪ツアーの開催により、地域住民が地域の歴史や民俗文化、自然の魅力と脅威に目を向ける機会となった。
- 公民館の講座にて探訪マップを使用した探訪会を実施したことで、区外への発信につながった。
- 地元店舗等に協賛を呼び掛けることで、地域の事業者・経営者の関心を高めた。また、協賛店舗で探訪マップを置いて頂くことで来客者が気軽に探訪マップを手にする機会につながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- いわゆる「村史」的なものではなく、写真などを多くし、気軽に手に取っていただけるガイドブックとマップの作成を目指した。
- 地元店舗等を訪ねての広告依頼は苦労したが、当会の活動への理解を広げることにつながった。
- 今回編集に際して、伝統行事や民間信仰、戦争の記憶、関係する史資料が急速に失われている現状を実感した。今後は、年配者からの聞き取り調査を進め、記録化し、公開への準備に取り組みたい。
- 今後、ガイドブックを使用した「北大出まるごと博物館講座(略称：まる博)」や現地探訪会などを企画し、テーマを広げたり、掘り下げたりして実施したい。

【選定のポイント】

一連の活動に地域住民を巻き込むことが、様々な形で地域の魅力に触れてもらう機会となり、地域全体での関心の高まりにつながった。また、マップと冊子には多くの写真を掲載し、小見出し等も親しみやすいものになるよう工夫している。更に、マップに参考ルートを記載することで、知識がない方でも活用がしやすくなっている。

団体名 北大出探訪会 連絡先 090-9358-3679 akahane.yo@icloud.com	事業タイプ ソフト事業 事業費 628,186円 支援金額 460,000円
--	--

木曾ペインティングス Vol. 6 「僕らの美術室」

取組に至る背景・事業の目的

御嶽山の噴火や大雨による土石流など、度重なる自然災害に見舞われてきた玉滝村は観光客の減少、少子高齢化、人口流出が課題となっている。また、木曾町や木祖村でも同様の問題を抱え、空き店舗や空き家が目立っている。日本一美術館の多い長野県の中で美術館を持たない木曾地域だが、独特な文化や暮らしを育み伝承してきた歴史がある。この地の歴史・文化を芸術の視点を持ってアーティストと地域住民が共同で創り上げ可視化する。



【オープニングレセプション】

事業内容

木曾地域に、芸術家の視点を介入させて芸術祭やイベントを住民と共同で開催した。主に子ども達が地域資源の活用や気候変動について興味、関心を持てるような課外授業を多数実施した。今では訪れる者が少なくなった資料館なども活用し、地域にアーティストや来場者を大勢呼び込み賑わいの場を作った。地域への愛着と誇りを深められるよう、木曾がロケ地となった映画観賞会を開催した。そして展示鑑賞会や映画上映後のトークを通じて、作品に込められたメッセージを自分なりに読み解く楽しみを伝えられた。

- ・美術室開設 10/1-11/7 の間 巴庵（宮ノ越）／課外授業（ワークショップ） 5/14-11/4 の間に 18 回実施 巴庵など 8 会場 参加者 333 名
- ・オープニングイベント【共催：義仲館】 10/23 巴庵・義仲館・宮ノ越公民館（出店 5 店/公演・参加者 53 名/観客 150 名）
- ・芸術祭「僕らの美術室」 10/23-11/7 の間 3 町村 14 会場で開催（参加者合計 38 名/内訳：アーティスト 32 名・高校生 6 名）（鑑賞者 1,416 名）
- ・アーティストインレジデンス 藤屋 5/14-11/12 の間（58 名/123 泊）常八 6/2-11/6 の間（8 名/45 泊）
- ・「リング・ワンダリング」上映会とトーク開催【共催：木曾文化公園】 11/3 木曾文化公園ホール（入場料 500 円/鑑賞者数 160 名）

事業効果

- ① 東京で鑑賞するものに劣らないクオリティで、且つ地域に根差した展覧会を木曾で開催し、他地域から大勢の来場者が訪れ賑わいを見せた。
- ② アーティストが専門技術を活かしたワークショップを住民や子ども達に向けて 18 回実施した。木曾の 200 年後を想像するディスカッションに熱が入り、ドイツ人アーティストとの言葉の壁は子ども達にとって興味の対象となり、熱心にコミュニケーションを取る様子が見られた。
- ③ 芸術祭で空き家を開放し、移住促進のみではなく空き家をアトリエや倉庫に活用しながら都会と木曾の 2 拠点生活等の提案を行った。木曾ペインティングスがきっかけで令和 4 年 4 月に木曾へ移住した方は現在木柁制作の仕事に励んでいる。これまで「売り物件」だった空き家は令和 4 年の年末に売却が決まった。
- ④ アーティストの視点から木曾を見聞きすることで、住民にも新たな発見があった。さらに、鑑賞会やトークイベントといった詳しく話を聞く機会を作る事で、より発見・再発見、更に知ろうとする好奇心を引き出せた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

令和 5 年度は岩熊力也/奥野宏/中條聡の 3 名が中心となり木曾ペインティングスから派生したアート・コレクティブ GR19 (galaxy route nineteen) として大桑村で展覧会・ファッションショー・ワークショップを開催し、引き続き地域住民とアーティストの交流・協働で地域を盛り上げていく。木曾ペインティングスとしてはギャラリーカフェ SOMA で「義家麻美個展」、「木村真由美個展」等複数の企画展を開催予定。また、藤屋（旧旅館）は令和 4 年 11 月に木祖村と共同使用が決定し、今後もレジデンススタジオとして多くのアーティストを受け入れ、空き家活用や移住促進に繋げていきたい。藤屋ギャラリーの稼働率を増やし、住民が楽しむ為の日常使いと並行しながら、村民が日常的にアートに触れる機会を増やしていきたい。

【選定のポイント】

地域の歴史・文化をアーティストの視点で形にし、地域住民を巻き込んでイベントを行い、郷土史への関心醸成が図れた。芸術祭で空き家を活用し、移住促進のみではなく、アトリエや倉庫に活用しながら都会と木曽の2拠点生活等の提案を行い、実際に売り物件であった空き家の売却が決まる等、空き家対策推進が図れた。今後も、多くの芸術家に空き家等を活用してもらうことで、空き家問題の解決や、更なる観光推進につながることを期待したい。

団体名	木曽ペインティングス実行委員会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	岩熊 美幸 (050-3700-5277)	事業費	2,529,665円
メールアドレス	kisopaintings@gmail.com	支援金額	2,021,000円

避難計画から避難所生活まで体験してみよう

取組に至る背景・事業の目的

避難訓練は発災後避難所に避難したことを想定して行われることが多い。しかしながら、近年においては集中豪雨などによる河川の氾濫や土砂災害などがメディアで報じられることが多くなった。これは「いつ」、「どのような状況になったときに」、「どのように避難するのか」を平時から考えておく必要性を示している。令和3年度は主に自治体の防災訓練などに合わせて、「避難所の生活スペース体験」、「健康二次被害の予防方法」、「災害時の食事をどのように確保するか」という発災後の視点で実施した。令和4年度はさらに家族での参加者を募集し、避難前の行動をあらかじめ考える「わが家の避難計画・マイタイムラインの作成」を加え、「発災前の避難計画から発災後の避難所体験まで」を実施した。自らの避難計画を考えることで、身近に潜む危険や平時からの取り組みの大切さを知ってもらい、さらなる地域防災力の向上を目指した。

事業内容

- ・飯田女子短期大学 公募型避難所体験「見て・聞いて・触れて 災害に備えよう！」2回開催 参加人数 22名
 - ・飯田市松尾地区 防災訓練の実施（飯田市防災地震総合訓練実施時と同日）参加人数 約60名
 - ・飯田市立西中学校 一年生防災学習 参加人数 約80名
 - ・番木村社会教育委員会「防災・地域探検ツアーへ行こう！」参加人数 37名（子供23名、大人14名）
- *各事業は教職員と学生スタッフの10～15名で担当した。



【パッククッキング体験の様子】

事業効果

- ①マイタイムラインの作成、健康二次被害の防止対策、パッククッキングの調理法および災害時に活用出来るレシピを一冊にまとめた「わが家の避難計画（A4・20ページ）」とマイタイムライン用「わが家の避難計画付属シール」を作成し、本事業の教材として使用した。
- ②マイタイムラインを作成することにより、防災マップで自宅や会社、学校周辺の危険箇所を確認し、警戒レベルと気象情報の関係を伝えることにより、発災前からどのように行動するのかを考えるきっかけをつくる事が出来た。
- ③発災後、避難所で生活するためのスペースとして室内テントと簡易ベッドの設置および撤去を3～4人グループで協力しておこない、共助の大切さを感じてもらった。
- ④最小限の水で口腔ケアをする方法、正しい手指消毒の仕方、エコノミー症候群を防ぐための弾性ストッキングの履き方などを実際に体験してもらい、健康二次被害予防の意識を高めた。
- ⑤家庭にある食材を利用して、最小限の水で、簡単に温かい食事を作れる方法としてパッククッキングを体験し、備蓄する食料や水、調理方法への関心を高めた。また、パッククッキングの取り組みを、研修会などで紹介する機会に恵まれた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

防災訓練は継続して何度も繰返して実施し、いつか来る災害に備えることが必要である。飯田市危機管理課に後援していただき自治体と連携、学校と連携、短大単独で募集するなど、様々な形で事業を行なうことができた。短大内でも学科を超えて教員が協力し合い、学生もスタッフとして参加し、本事業をより良くすることができた。また、アンケート結果から、参加者の満足度も高く問題意識を持ちながら参加していたことがわかり、地域防災力の向上につながったと考えている。今後は、それぞれにあった備えの見直しと、地域住民や職場などの仲間同士で「自助」や「共助」を体験できる取り組みを進めていきたいと考えている。最終目標は、募集型防災訓練（救命救急法講座、擬似避難所体験（テント設営、大釜炊き出し訓練、車いす避難体験など））の開催を継続して行ない、防災意識を持続できる環境を整えていきたい。

【選定のポイント】

管内の小規模自治体や住民と連携し、一緒に災害時の状況を学ぶことで、地域の防災力向上に寄与している点を評価した。

団体名	飯田短期大学	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	防災チーム	事業費	1,367,044円
	TEL:0265-22-4460	支援金額	1,080,000円
	E-mail: genki-bousai@iida.ac.jp		

有機堆肥で環境に優しい農産物作り

取組に至る背景・事業の目的

- 急激な気候変動が社会的に問題となっており、子どもや地域住民が環境問題や脱炭素の取組を主体的に学ぶ必要がある。
- 気候変動を抑制する環境再生型農業の実践によりカーボンニュートラルを目指すため環境に優しい農産物作りを実践する。

事業内容

- 有機堆肥で環境に優しい農産物作りコンテスト
6月～8月土づくりと野菜・大豆作りを行い、育てた野菜で馴染み深い給食のレシピを考え、コンテストに参加
- フランスの給食たべてみる？講演会&ワークショップ
オーガニック給食を成功させた講師から給食レシピを学んだ。環境に優しい農産物作りをどのように給食に取り入れることができるか考える良い機会となった。
- 有機堆肥で元気づくり講演会
科学肥料を使わず元気な野菜を育てる菌ちゃん農法を実践しながら伝えている吉田俊道先生から元気な土づくりの方法や土と同じように人間の体を元気にする秘訣を学んだ。



【学校で有機堆肥作りの様子】

事業効果

- ・有機堆肥で環境に優しい農産物作りコンテスト
参加者が目標を上回り、10人から150人、1,400%増という喜ばしい結果で環境に優しい農産物作り人口が増えたことは大きな成果と言える。
育てた野菜で馴染み深い給食レシピを考えることで親子で楽しく食育ができ、食と農について深く考えることができた。
- ・フランスの給食たべてみる？講演会&ワークショップ
フランスでオーガニック給食を成功させた講師を呼び日本の給食にどのように取り入れられるかを学び、参加者同士で考えた。食と農の関わりを大切にしながら子供も大人もみんなで考えることができた。
- ・有機堆肥で元気づくり講演会
元気な土づくりをどのようにできるのかわかりやすい説明を受けて、春からの畑づくりが楽しみになった。また体を元気にするための方法はすぐに実践できるもので、明日からやってみたいと参加者は意欲を示した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

春から環境に優しい農産物作りを始めたいという人に向けて説明会を開き、参加人口を増やしながら学校や地域で多くの参加者と環境や、食と農について深く理解を深めていきたい。コンテストは親子で有意義な時間となり、佐久市長からこのようなコンテストを続けてほしいという力強い言葉もいただいたので、継続して行う事業にしていきたい。
引き続きフランスのオーガニック給食について学びを得ながら、環境に優しい農産物作り方法について講演会を行いつつ、畑人口を増やし、カーボンニュートラルの実践をしていきたい。
コンポストのワークショップを行うことで、さらに環境への関心を高めて学びを深めていく。

【選定のポイント】

小学生に、環境に優しい有機堆肥を使用し農作物を育てもらい、その農作物を使った給食を考えるコンテストを開催した。また、フランスの給食を紹介する講演会・ワークショップや、有機農業に係る講演会を実施した。

今後も小学校等と連携しながら、有機農業に係る知識と体験を得られる機会を更に増やすことが期待される。

団体名	山の中ガーデン小径	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	長野県佐久市根々井 405-7	事業費	418,342円
		支援金額	332,000円

飯田下伊那の猫の殺処分ゼロをめざして 人と猫が幸せに共生できる街づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

飯田下伊那は、猫の殺処分が県内一多い地域であり、この問題への地域住民の関心が非常に低いことから、不妊去勢に対する理解、知識も乏しく、山川への遺棄も未だに絶えず、野良猫の過剰繁殖問題をも引き起こしている。また糞尿被害によるトラブル、多頭飼育問題、独居高齢者のペットの後継問題も多々起きている。このような状況下で、不妊去勢手術（TNR 活動）、地域猫活動への理解と協力、適正飼育、猫問題の現状を周知していくことが必要であると考え、行政等と連携しながら地域住民への知識の共有を行うこととした。理解を深めるためのイベント事業、活動内容のチラシ作成・配布による啓発活動を行ない、共に考え行動する方々を増やしながら、地域の猫に関わる問題の解決に向けて、人にも猫にも優しい住み良い街へと変われるようこの問題に取り組んでいる。

（*TNR 活動 飼い主のいない外猫を捕獲して、不幸な命が増えないよう不妊去勢手術を行い、元の場所に戻す）

事業内容

1. 猫に関する困り事を記載した団体のチラシを作成し、新聞折込、協力企業、施設へ配布・掲示を行った。
2. 市民の関心を高めるため、飯田市立動物園、かざこし子どもの森公園、南信州環境メッセ等での啓発活動を行った。
3. 「にゃんにゃんフェス 2022」の開催

この街の猫問題について、猫の可愛さと現状を伝えていくことで、市民の関心を高めるきっかけとなるよう、講演会、動物の絵本の読み聞かせ、地元アーティスト出演のイベントを動物園の協力を得て企画開催した。

4. 保護猫（野良猫）の印象が汚い、恐い、病気があるなどのマイナスなイメージを持たれる中で、みんな大切な命であるということ、可愛いキャラクターの着ぐるみ製作を通じて知ってもらい、保護猫を家族へと迎えるきっかけづくりとした。不妊去勢手術（TNR 活動）をし、元の場所へ戻す猫の記として耳をカットした通称「桜耳」の猫の着ぐるみは全国で類を見ない取組みとなり、子どもから大人まで親しみを持てる存在となった。



【動物園での啓発活動イベント事業】

事業効果

- ・団体のチラシの作成により、今まで猫に関わる問題にどのように対応してよいか分からなかった自治体、地域住民からの相談が増え、施設等に設置、回覧板にて配布してもらえ自治体が多くなった。
- ・イベントでの啓発活動により住民、自治体への周知と理解を深めることで、外（野良）猫の不妊去勢手術数が増加し、飯田市の手術助成金額も増額となるなど、猫の過剰繁殖問題への理解の広がりを少しずつ実感している。

* 野良猫の不妊去勢手術（TNR 活動）の実績 R3年度：763頭 → R4年度：970頭

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・コロナ禍の中、計画していた啓発活動の場を利用できず中止せざるを得なかったことや、会場によっては集客がうまくいかなかった点を踏まえ、今後どのような場所で啓発活動を行なっていくか、どのように理解と協力、支援の輪を広げていくかが課題である。
- ・イベント事業では、メディアにも取り上げられ、「初めて知った」、「保護された子を迎えたい」などの声も多々聴け、保護猫活動を知るきっかけの一つとなれた。着ぐるみの猫も子どもたちに大人気だったことから、今後も保護猫の負のイメージを払拭できるような活動に繋げていきたい。
- ・県内一多い、猫の殺処分をなくせるよう行政と連携を取りながら、過剰繁殖問題の解決策のひとつである不妊去勢手術の必要性の周知と TNR 活動を続けていくと共に、命の大切さを子どもたちに伝える啓蒙活動もさらに普及していく。
- ・独居高齢者に見られる多頭飼育崩壊が全国的にも増えており、福祉に関わる各分野との連携をとりながら人にも猫にも住みよい環境を整えていく手助けが重要である。

【選定のポイント】

猫の殺処分数県内ワースト1という、南信州地域の問題解決に向けて、様々な創意工夫を凝らした活動を行っている点、団体主体の活動に留まらず、保健所や市環境課等の行政にも働きかけることで、保護猫の譲渡数の増加、猫の不妊去勢手術数の増加という効果を生み出している点を評価した。

団体名	一般社団法人 猫 110 番かぎしっぽ	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0265-24-3820	事業費	663,492円
アドレス	kagishippo.iida@gmail.com	支援金額	460,000円

地域の環境被害対策としての猫問題の解決事業

取組に至る背景・事業の目的

令和3年11月に木曾郡域の環境被害対策としての猫問題に取り組むために木曾ネコ会を立ち上げた。飼い主のいない猫との共生を目標に、不妊去勢手術を行うとともに、新しい飼い主を探して飼い猫にしていくことで、飼い主のいない猫を無くしていき、将来的に殺処分ゼロを目指す。



【TNR 活動の様子】

事業内容

木曾地域では、糞尿被害・繁殖期の鳴き声・捨て猫といった野良猫問題及び不妊化手術をせず放し飼い、飼育放棄、多頭飼い飼育崩壊といった飼い猫の不適切な飼い方が住民トラブルにもなっている地域があり、猫に対しての虐待も多く聞かれた。野良猫たちの問題を地域が抱える問題として捉え直し、生態に見合った合理的な対策によって着実に個体数を減少させて、猫を悪者にせず、人にも猫にも住みよい地域をつくっていくために、野良猫の不妊去勢手術を実施した。また、勉強会や絵本、捨て猫防止ポスター、チラシなどを作成し、オリジナルの猫トイレも設置した。地域猫活動についての理解を地域住民に広く伝える対策を行った。

事業効果

- ① 支援金を活用して、花壇一体型猫トイレの設置を行うとともに、地域猫活動を木曾地域全体に広げる啓発活動をしたことで、木曾町においては活動の実績が認められ、「猫繁殖制限手術費補助金制度」が制定された。他郡内町村でも制定予定との情報が入っている。
- ② TNR 活動により、新たに不幸な命を作らない活動が出来た。(※TNR とは T…Trap (捕まえて) N…Neuter (不妊化手術をして) R…Return (元の場所に返す) の略)
- ③ 様々な活動の成果により、知名度が上がることで、さらに相談数が増えた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

来年度はさらに行政や地域住民との連携を深めた活動を継続していきたい。上記の TNR 活動や、啓発活動と並行して保護できる猫の譲渡にも力を入れ、保健所への猫の持ち込み数を減らし、殺処分ゼロを目指す。猫の引き取りはしないが、保護したい方の支援には応じていく。(捕獲器の貸し出しや里親探し等) 行政と連携しての仕組み作りを働きかけ、行政と地域住民が一体となった地域猫活動にしていく。新たな野良猫を生み出さない為に、飼い猫に対しての適正飼育の在り方を周知させる活動を行っていく。そうすることで他の地域にも「命に優しい町づくりをしている町」をアピールでき、観光客や移住者を呼び込むことにも繋がっていく。いずれは木曾の町中に啓発グッズや売上げが猫の保護活動に充てられる猫グッズなどを置いたショップも開店させ、観光客を呼び込みたい。ショップに置くグッズはなるべく木曾の作家の物を扱い木曾の産業の発展も意識していきたい。花壇一体型猫トイレの横で猫がくつろいでいる姿を目標に頑張っていきたい。

【選定のポイント】

野良猫や飼い猫の適切な接し方を周知していくことにより、野良猫問題の改善が期待できる。また、地域猫活動の啓発を木曾地域全域に行ったことにより、木曾町では、不妊化手術に係る補助金が制定された。今後は、さらに行政や地域住民との連携を深めた活動を期待したい。

団体名	木曾ネコ会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	上田 とめ子 (090-3557-1032)	事業費	1, 832, 075円
メールアドレス	唐澤 陽子 (piqln01467@yahoo.co.jp)	支援金額	1, 355, 000円

ふるさと探究「探究学習支援」事業

取組に至る背景・事業の目的

15年間のNPO活動で培った、地域資源の掘り起こしと体系化、歴史的地理的背景を含んだストーリーの捉え方と人材育成のノウハウを活かし、地域の未来を担う子どもたちへの探究的な地域学習に活用できるよう地域資源の見せ方を工夫していく。

また、行政や他の市民団体との協働のまちづくりの実績を活かし、市、教育委員会、学校、地域等との連携を深め、子どもたちの探究的な地域学習を継続的に支援できる仕組みの構築を目指す。

事業内容

- フィールドワークを主体とした小中学生対象の地域探究学習講座の開催
- 探究学習支援ツールの作成
- 探究学習支援サイト「ふるさと探究安曇野」での活用事例等の情報発信
- 「屋敷林フォーラム」や信州歴史的まちなみフォーラム、パネル展等による広報



【地域探究グループ作業の様子】

事業効果

探究学習講座の開催：7団体（中学校2、小学校1、他4）

探究学習講座の受講者：239名

活動事例パネル表示（公共施設等）：4ヶ所（環境フェア、歴まちフォーラム、ココブラトークショー、屋敷林フォーラム）

活動事例発表を行うフォーラム等の参加者：74名+CATVでの発信（屋敷林フォーラム）

- ・実施した地域探究学習講座のフィードバックによる活動事例等の支援ツール及び支援サイトの充実により、学校等における探究的な地域学習を支援し、次代を担う子どもたちの育成につなげる。
- ・行政や市民活動団体等のネットワークに学校等が加わることで、地域で学校を支える仕組みづくりの第一歩となった。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

「教える」のではなく、子ども達が楽しみながら「気づき」「考える」ことを工夫しているが、そのためにはNPOも教師も意識改革が必要だと感じている。また、持続的な活動には、多忙な学校現場の理解と共に、学生や若手教師等の担い手の確保が大きな課題である。

教育委員会と連携し安曇野市が取り組む、ふるさと安曇野を体験的・探究的に学ぶ時間「安曇野の時間」での活用を視野に、令和5年度は教師を対象とした地域探究体験会、令和6年度以降は若手教師や大学生等を対象とした「担い手育成講座」の開講を検討中。区や公民館、博物館等とも連携を深め、地域の幅広いネットワークを活かした持続可能なしくみづくりへとつなげていく。

【選定のポイント】

- ・教育現場では、学校内に留まらない地域社会を学ぶ場とする主体的な学習が求められている中、本事業はこのようなニーズに対応した事業であり、評価できる。
- ・地域住民と協働して学校や子どものニーズに応じたオーダーメイドで「謎解きウォーク」など子どもに親しみやすい形で探究的な学びの場を提供するなど先進的な取り組みである。

団体名 NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団
 連絡先 0263-81-1325
 ホームページ
<https://azumino-furusato.com/>
 メールアドレス
lifepoint@nifty.com

事業タイプ ソフト事業
 事業費 1,024,210円
 支援金額 756,000円

鹿島川左岸堤防遊歩道整備事業

取組に至る背景・事業の目的

鹿島川左岸堤防は北アルプスの眺めがよく、観光客等が鹿島川の清流と北アルプスの山並みを撮影するために訪れるが、足元の状態が悪く、移動に苦慮する姿が見られる。

鹿島川左岸堤防に遊歩道を整備することで、堤防からの眺めを観光資源として活用し、地域の活性化につなげることを目指す。

事業内容

- 遊歩道を整備し、テーブル、椅子、花台等を設置
(7月～11月)
 - ・重機作業等は専門業者に依頼したが、できる限り会員等が行った。
 - ・地区内外から多くのボランティアが作業に参加。テーブル、椅子等の組立及び防腐剤の塗布には、近隣の小中学生も参加した。
(令和4年度は、全体の3分の1の整備を実施)



【テーブル、椅子等の組立て作業】

事業効果

- ・堤防の整地完了後、周辺宿泊施設の宿泊客や散歩、ランニング等に利用する人の姿が見られ、全線開通が待ち望まれている。また、トレイルランニングのコースに利用したいとの相談も寄せられており、地域を訪れる人の増加が期待できる。
- ・遊歩道整備の情報を聞いた周辺の土地の地権者から、駐車場にと土地の無償貸与を受けた。鹿島川左岸堤防を訪れる人のために有効に利用する。
- ・地区住民、近隣住民、周辺観光施設等にも参加を呼び掛け、地域ぐるみで整備を行うことで、地域のつながりが深まることが期待できる。



【整地作業】

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

残る区間について、地区内外の住民や周辺の観光事業者等にも参加を呼びかけながら、引き続き整備を行う。

整備後も、さらに魅力ある遊歩道とするため、環境保全のための定期的な草刈りや景観形成のための植栽等に取り組む。

全線開通後のイベントの開催など、周辺の観光事業者等と連携し、情報交換を行いながら、検討していく。

【選定のポイント】

鹿島川左岸堤防からの眺めを楽しめるよう、地域住民や近隣の小中学生の参加も得て、堤防に遊歩道を整備した。引き続き地域住民等と協力して残る区間の遊歩道を整備し、遊歩道をイベント等で広く活用することで、来訪者の増加や地域の活性化につなげることを期待する。

団体名	はなみフラワーズ (大町市)	事業タイプ	ハード事業
連絡先	大町市平999-1	事業費	2,123,000円
		支援金額	1,592,000円

白馬駅周辺まちあるき促進景観向上事業

取組に至る背景・事業の目的

白馬駅周辺については、正面に北アルプスを望む景観資源を有することから、街路のイルミネーションやイベントの開催、歩道の緑化等を行ってきた。

白馬駅前の無電柱化事業にあわせて、地元地域として駅前の景観整備を行い、白馬の持つ観光ポテンシャルの新たな切り口として、「まちあるき」ができる空間づくりに取り組む。

事業内容

○街路灯の再整備

白馬駅前の無電柱化事業に伴い、街路灯が撤去されることから、「星空が見える街並み」をコンセプトに設計された空を照らさない街路灯を新たに設置。

- ・街路灯設置数 10基
- ・街路灯建柱作業への地域住民延参加者数 50名

○プランター植栽の設置

色彩豊かな街路空間を演出するため、街路及び周辺の店舗等にプランター植栽を設置。

- ・植栽設置作業への地域住民延参加者数 20名
- ・街路植栽設置に併せて植栽を設けた店舗等数 5ヶ所



【新街路灯点灯の様子】

事業効果

- ・公共事業に関連し、地域が主体となって街路灯の再整備とプランター植栽の設置により付加価値を創出することで、街路景観の向上だけでなく、地域発案による官民協働での「まちづくり」が行われ、地域のまちづくりに対する気運の向上につながった。
- ・街路灯の整備等によりまちあるきを楽しむ来訪者が増加することで、白馬駅周辺が新たな観光拠点となり、村全域へ波及効果のある流動が生み出されることが期待される。



【白馬駅開業90周年イベントで新街路灯点灯】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

街路空間整備のキックオフツールとして元気づくり支援金を活用。今後は、地域財源を主体に、少しずつ残りの区間の街路灯の整備を進めていく。街路灯デザインから製造会社の選定、既存撤去及び新規建柱作業をすべて地元主体で行うことができたためコスト削減ができたとともに地元メンバーが自分ごと化することができた。

【選定のポイント】

白馬駅前無電柱化事業に関連した地域の取組として、事業に伴って撤去される街路灯の設置及び歩道、店舗等へのプランター植栽の設置を行い、白馬駅周辺の街路景観を整備した。取組を通じて、景観・街並みに対する地域住民や関係者の意識がさらに高まり、白馬駅周辺の景観・街並みがより魅力的なものとなることを期待する。

団体名	白馬町景観向上チーム（白馬村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0261-72-2159	事業費	8,090,693円
		支援金額	5,000,000円

ゼロカーボン長野プログラム 2022

取組に至る背景・事業の目的

環境保全や都市緑化に取り組むボランティアや市民団体が行政機関と協働しながら普及啓発活動を実践してきた。2050 ゼロカーボンを実践していくため、関連する市民団体等はもとより、さらにより幅広い市民、団体・企業へと知名度を高め浸透を図っていくため実施する。

事業内容

ゼロカーボン社会の構築及び地球温暖化防止活動の普及啓発活動のため、5つのプログラムを実施。

1. グリーンインフラ体験活動 (6/16～8/10 の56日間)
長野駅善光寺口駅前広場で緑化スペースを設置
2. リサイクルラボ (7/16～7/18 の3日間)
リサイクルによるゼロカーボンのワークショップ
3. ゼロカーボンさみっと 2022 (7/29～7/31 の3日間)
ゼロカーボンの体験、展示等の普及啓発イベント
4. グリーンインフラフォーラム
・オンラインシンポジウムの開催とWebでの配信
・5会場でのパネル展
5. エコマラソン長野 2022 (9/17～9/18 の2日間)



【グリーンインフラ体験コーナーの様子】

事業効果

- ①善光寺御開帳から盛夏までの間、長野駅前広場で緑化スペースを提供することで、駅利用者、来訪者にグリーンインフラを知ってもらう機会となった。芝生にすることで表面温度が12℃下がる効果が実証できた。
- ②親子参加でのワークショップを通じて、楽しみながらゼロカーボンへの理解を深める機会となった。クイズなどを取り入れ、幅広い年齢層への浸透を図ることができた。
- ③小学生・中学生とご家族など幅広い年齢層への普及啓発活動ができた。ライブ配信・収録配信を取り入れたWebの活用で事業効果を増大できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ゼロカーボン社会の構築および地球温暖化防止活動の普及啓発のため、都市緑化、リサイクル、省エネ・再エネのテーマごとプログラムを実施することができた。オンライン配信なども積極的に活用し波及効果を高めた。引き続きこのプログラムの内容を充実させることで、ゼロカーボン社会に向けた普及啓発活動の発展が期待できる。

また、所期の目的であった行政機関や関係団体、企業、市民有志などさまざまな主体との連携の機会が継続的に実現できたことから、今後もこうしたネットワークのプラットフォーム機能を継続、拡大していきたい。

【選定のポイント】

長野駅前広場での「グリーンインフラ体験」や、子ども向けのリサイクルラボ、知見者がディスカッションするシンポジウムの開催まで、幅広い世代やレベルに対して広く普及を行い、長野市内におけるゼロカーボンの取組の普及に大きく寄与した。また、グリーンインフラ体験コーナーでは、長野市・長野高専と連携して、芝生の効果を検証し、芝生が石畳より約12℃低く、緑化で温暖化防止につながることを実証し、今後も更なる取組により一層ゼロカーボンの普及を推進することが期待できる事業となった。

団体名	特定非営利活動法人CO2バンク推進機構	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	理事長 宮入 賢一郎	事業費	4,875,805円
ホームページ		支援金額	3,900,000円
	https://www.co2bank.org/pr-zero/zerocarbon.htm		
メールアドレス	co2bank@nifty.com		

安全・安心な魅力ある木島平エコヴィレッジ・ゼロカーボン推進事業

取組に至る背景・事業の目的

豪雪地域や特別豪雪地域に指定される北信地域は、積雪がネックとなり、太陽光発電の普及が遅れる原因となっている。そこで、脱炭素社会の推進の啓発と主体的に担う人材を育成するため、太陽光発電の効果を目に見える形とするモデルハウス事業と、地域の人が協力して自らの手でソーラーパネルを作成する体験教室を開催。

併せて、冬の積雪時にも対応する形で、脱炭素社会を推進するモデル展開を進める。

事業内容

【村民主体独立型太陽光発電】

太陽光発電に取り組む人材育成と効果を目に見えるようにするため、村民の手で太陽光パネルを作成し、人が集まる公共の施設を活用しソーラーパネルを設置した。

太陽光発電のシステムは、外から見えるよう、リチウムバッテリーを屋外のボックスに収納し、発電と使用量が見て分かるよう工夫するとともに、積雪時の対応も考えて設置を行った。また、ソーラーパネルの製作については、近隣市町村との協働の取り組みも行った。

【小太陽光発電を推進する事業】

木島平村中学校と協力し、授業の中でソーラーパネルを自らの力で製作しました。自宅に持ち帰り LED ライトを点灯させたり、スマホなどに充電することを通して、興味と関心を深めエコヴィレッジの推進と 2050 年のゼロカーボンを実現する若い世代を育てる取り組みを行った。

自分でメッセージをいれた太陽光パネルを作った中学校は、全国でも例がないと思う。



【皆でマイパネルを作ろう】

事業効果

(1) 脱炭素社会を主体的に担う意識とその人材の育成

太陽光パネルを作成するための機械（ラミネーター）を使い、自分たちでソーラーパネルの作成を指導できる人材が育ち、行政と協働による事業を推進する基盤が作られた。

(2) 自然エネルギーの普及と脱炭素社会への積極的な取り組み

災害等による全電源喪失時に備えた、安全・安心な地域づくりが前進した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

工夫したことは、作成の際にパネルのガラスの内側に自分の名前を入れ、「世界に一枚しかないマイパネル」であることや環境問題について全員がそれぞれメッセージを書いたこと。中学生に教える時は、電気の流れを分かりやすくするように全体の設計を考え、作りやすい大きさにセルをカットした。

苦労したことは、インドから取り寄せたガラスが輸送中に何枚も割れたこと。このような想定外のこともあったが、中学校の先生や保護者の協力で、クラスの全員が自分の手作り太陽光パネルを完成できた。作った太陽光パネルと LED ライトを嬉しそうに家に持ち帰る姿を見た時は感激した。

今後の課題は、木島平村の道の駅にあるラミネーターを活用し、「自分で太陽光パネルを作る楽しさ」を多くの人に体験してもらうこと。また、雪国の魅力を活かした太陽光発電の設置方法と、電気の消費量を減らす意識を広めていける取組みを考えていく。

【選定のポイント】

太陽光の活用が難しい豪雪地帯において、ソーラーパネルを手作りするワークショップや学習会を開催し、太陽光の活用を住民が身近に感じる機会をつくった。住民の理解醸成や近隣自治体からの関心の高まりを活かして、ゼロカーボンの取組がさらに展開することが期待できる。

団体名	特定非営利活動法人 太陽と水と緑のプロジェクト	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-3914-0275 (長野事務所)	事業費	1, 817, 862円
ホームページ		支援金額	1, 408, 000円
	https://blog.goo.ne.jp/khelgharjp-tj		
	メールアドレス npo.swgp@gmail.com		

誰もが、障がい・年齢に関係なく「できることではなく、やりたいことを」**取組に至る背景・事業の目的**

高齢者や障がいに関係なく『誰にでも優しい観光地すわ』になるために、ユニバーサルツーリズムに対する地域全体での意識の共有やおもてなし力を学び、観光地としての質の向上を図るために、外出や旅行を初めから無理だと諦めてしまい、「やりたい、出かけたがたい」気持ちに蓋をしまっている現状と受け入れ側もハード・ソフトの対応を何をどうしていいのかわからず、悩み迷っている現状があり、両者の想いの実現のための人的サポートが必要であった。

コロナ禍や超高齢化社会において、旅行や外出のスタイルが、団体から個人へ、遠距離から近距離へ等、変わりつつある中で、より諏訪らしい諏訪の資源（温泉・神社仏閣・地の利・人材）を生かしきれしていない現状があった。

事業内容

●マイクロツーリズムで、地元の魅力の再発見や、地域の・ヒト・モノ・コトとが繋がり、専門性を極めるためにマナブ。コロナ禍において観光事業の転換期を迎えている。皆が自分ごとと捉えられるようになると、各職場や地域での意識向上につながる。本事業で各専門家と繋がることで、連携して継続したスキルアップを図る。

・「ユニバーサルツーリズムセミナーinすわ

誰にでも優しい観光地すわになるために」セミナーの開催

『ウイズコロナ時代、今こそユニバーサルツーリズムで諏訪へ』

『利用したくなるユニバーサルツーリズム～親孝行温泉の可能性とは～』

『今だから、“すわ”だから、の“おもてなし力”を考える』（3回シリーズ）

●一歩進んだ“誰にも優しい観光地”になるきっかけとなる。入浴介助サービス開始にあたり、受入れ施設側でもバリアに配慮した入浴施設を利用した介助サービスを知る機会と介助サービス者の育成
・ユニバーサル温泉勉強会（モニターツアー4回）

**【誰にでも優しい観光地すわセミナー】****事業効果**

・コロナ禍における新しい旅のスタイルに対して、行政担当者や観光関係者の意識の変化が現れてきている今だからこそ、『誰にでも優しい観光地すわになるために』地域関係者の協働と意識の定着を図る本事業が必要と考え実行された。セミナー参加者

・令和2年12月25日より、観光庁で「観光施設における心のバリアフリー認定制度」が開始しているが、諏訪地域の観光施設・旅館・ホテル・飲食店においても、心のバリアフリー研修（信州あいサポート研修）の認定を受けるホテル・旅館が増えている。長野県内最多

・コロナ禍において、打撃を受けた観光事業者がユニバーサルツーリズムの重要性と可能性に気づき、施設の部屋やお風呂のバリアフリー改修に着手し始めている。その際、相談やアドバイスの依頼をいただくことが増えている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

諏訪地域から長野県全域に人的サポートの仕組みが広がり始めている。長野県以外からも注目されるようになり県外から講演依頼が増えている。諏訪地域がユニバーサル温泉の先進地になってくると全国から注目され始めている。NHK（Eテレ）でも放送されました。

【選定のポイント】

ユニバーサルツーリズムに関心を持ち始めた観光関係事業者や自治体担当者が、本事業で学んだ成果をそれぞれの団体において実践し始めており、諏訪地域でのユニバーサルツーリズムのさらなる推進が期待される。

団体名	ユニバーサル・サポートすわ	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-3558-4502	事業費	817,600円
ホームページ、メールアドレス		支援金額	645,000円
https://www.facebook.com/yunisaposuwa/ yunisaposuwa@gmail.com			

地域の女性目線で届けるマイクロツーリズム 『ちかくの旅の見本市 in 8 peaks』

取組に至る背景・事業の目的

背景) ちの観光まちづくり推進機構のこれまでの業務は、インバウンドや県外観光客獲得を中心とした観光誘客戦略としており、冬季の雪深さによる往来のしにくさも手伝って、市街地と山間地の物理的、心理的距離があり、地元住人が地域に点在している素晴らしい観光資源・地域資源を知らない、気が付いていない、体験していないという状況があった。これらを分析してみると、課題の1つとして、地域で活躍している女性は点として数多く存在しており、それぞれの事業や活動を発信しているケースもあるが、横の繋がりが薄く、観光地域内全体として、女性からの地域の観光プロモーション発信という観点にはなっておらず、女性視点を面として活かしてきれていない。2つ目の課題として観光系の勉強会などは、主に男性対象で開催日時や内容などを含め、女性が参加することが想定されておらず、女性参加者が少なく情報共有がされていない。という分析結果から次の目的を掲げた。

目的1) 選ばれ続ける観光地域になる為、地域住人が地域の素敵な観光資源を体験し良さをよく知る
目的2) 旅先を決めたり、旅の中で消費する機会が多いのは女性。そこで地域の子育てをしながら働く女性を中心に、地域の面白いコト・モノを女性目線で発信していく土壌を醸成し、先々の効果的な対外的なプロモーションにも繋げる。

事業内容

①～③を行い、集大成として④の事業を実施した。

① 山の家フェス 2022 : 6月19日

地域の女性と地域の子どもで作る、『住んでよし、遊んでよし、を体感!』地域の魅力発信イベント実施(子供が中心となって企画運営するブース出展やステージ発表もあるイベント)

② 躍女とおしゃべり : 7月3日

地元の観光に興味をもっといただくために、若者に人気のインフルエンサー新塘真理さんをお招きしてトークセッションを

行い、9月に向けて女子学生・20代女性など現在メンバーにいない年代層の実行委員募集を実施

③ ちかくの旅の見本市 in 8 Peaks パンフレット/WEB制作

9月17日～10月16日実施 八ヶ岳エリアで活躍している女性を実行委員とし、地域の女性目線で魅力的なオススメスポットを提案する期間イベントのパンフレットを制作し八ヶ岳西麓エリアへ配布

④ 蓼科湖フェス 2022 : 10月16日実施 地域の観光事業者が一体となって地域住人、別荘利用者、観光客を「おもてなし」するリアルイベント、として地域発表、各観光協会の出展ブース設置、アンケート調査を行い、ちかくの旅の見本市 in 8 peaks の最終イベントを実施



【蓼科湖フェス出店の様子】

事業効果

- ① 前年比約1.5倍のパンフレットを作成し配布。FBフォロワー1.47倍。インスタフォロワー1.72倍に伸ばすことができた。さらに店舗への送客にもつながった。
- ② 7/3の躍女とおしゃべりでは現役女子高校生を中心に40名の若年層が集まりまちづくりと発信について触れる機会を作れた。その中の複数名がパンフレット制作や配布にも協力してくれた。
- ③ イベント出店者や、パンフレット掲載事業者に対して寄付をお願いするなど運営資金集めを試みた。費用対効果の面などで課題が残るが、賛同者を募ることができマーケティングとしても価値があった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

2年にわたる活動で、エリアを超えたつながりが出来てきた。また、活動に参加することが一番発信につながることも実感したことで、持続可能な活動にするために、実行委員会メンバーの負担を軽くしていく課題も明らかになった。また地域のイベントを主体として実施するのではなく、各エリアで開催される大小さまざまな、イベントや季節の行事を含む地域の魅力や、なかなか伝わっていない本当の価値を発信できる人材育成という切り口で、引き続きボードレスに連携し女性目線で発信する活動を進めていきたい。

【選定のポイント】

女性や若者など多様な地域住民を巻き込んだ魅力的なイベント等の開催により、地域住民主導での「選ばれ続ける観光地域づくり」が進んだ。エリアを越えたつながりができたことで、今後も持続的な活動が行われることが期待できる。

団体名 (一社) ちの観光まちづくり推進機構	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0266-73-8550	事業費 3,169,170円
Mail ask8@chinotabi.jp	支援金額 2,535,000円

三遠南信自動車道の開通を契機に「天龍峡」を竜東地域拠点とする新たな観光資源開拓のための挑戦

取組に至る背景・事業の目的

- 天龍峡、リンゴをはじめとする果樹収穫体験といった旧来の観光資源に加え、三遠南信自動車道（天龍峡大橋）が開通し、一定の観光需要を刺激する存在となっている。
- 一方で観光スタイルの変化、多様化により既存観光に対する観光客の減少、地区内の人口減少と高齢化が大きな課題である。
- 令和2年度から活動を開始した、当地区が有する「天竜川河畔」、「坂」、「里山」等の潜在的な観光資源と、これらと親和性の高いアウトドアレジャーを掛け合わせ、果樹収穫体験など既存観光も巻き込んだ、観光コンテンツづくりを同様の活動を行う周辺公共の団体と連携しながら、南信州という広域での観光による地域振興活動を継続、進化させて課題解決を図る。

事業内容

- 「第三回南信州龍江アウトドアフェス」の開催
- 農家民泊番組制作およびYouTube 配信
- 分校跡地の活用した1日1組のキャンプサイト本格稼働
- 南信州を紹介する「フリーペーパーMOP」の発刊、配布



【第三回アウトドアフェスの実施】

事業効果

- 一部の人間だけに頼らない、今後の運営を担う実行委員会により、龍江の生業を活かした持続性のある形で南信州龍江アウトドアフェスを開催できた。3年間で2,000名程度の集客を達成。
- 既存のデジタルコンテンツに加え、YouTube 配信番組を制作し、配信。2,000回余の再生回数を獲得、当地の認知度の向上が図れた。
- キャンプサイト本格オープンに伴い、ほぼ毎週末、都市部などからの利用者が訪れるようになった。オープンから10か月で、50組220名余りが利用し、リピート利用者も複数組あり、関係人口増加への拠点として機能した。
- 南信州龍江アウトドアフェスでの出店、無料情報誌「MOP」発刊に伴い、今後の継続的な活動の基礎にもなる周辺事業者との関係づくりを行うことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

工夫・苦労した点

- 全ステークホルダーに対する合意形成ステップ。
- 三年目以降の自走での、事業継続を見据えた収益基盤づくり。

課題

- 中心となる活動メンバーが限定されてしまったこと。
- 委員会役職者の定期的な交代に伴い、継続性を保持するのに労力を要したこと。

今後の取組み

- 現行事業と親和性の高い事業を付加し、事業規模の拡大を図る。
- 現行事業に関与する人を拡大して、安定的な運営を図る。

【選定のポイント】

地域の農業や里山の立地を活かした魅力的な体験イベントを行い、実際の集客につながっており、県が目指す「里山を生かした観光の推進」に資する事業内容である点、周辺団体との連携により、事業の継続性が高い点を評価した。

団体名 龍江地域づくり委員会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0265-27-3004	事業費	4,343,503円
ホームページ https://tatue.jp/	支援金額	3,410,000円

白馬村宿泊産業イノベーション研修実践事業

取組に至る背景・事業の目的

過去と比べ白馬村を訪れる観光客数は減少しており、就業人口の多くが第3次産業に携わる白馬村としては厳しい状況にある。通年型マウンテンリゾートを実現し、選ばれる観光地づくりを実現するためには、域内の宿泊産業のサービス向上による経営の刷新と生産性の向上、魅力ある新たなサービスを提供する宿泊業の創出を図り、潜在環境の魅力づくりに取り組む必要がある。

事業内容

村内の宿泊施設経営者等を対象に、講義及びグループワークを実施（3年目受講者：9名）。

グループごとにプロジェクトを企画し、シンポジウムで成果を発表。

- ・第1回 7月12日
- ・第2回 9月26日
- ・第3回 10月27日
- ・第4回 11月25日 白馬村宿泊シンポジウム
(基調講演、成果発表、座談会)
- ・自主的なオンラインミーティングを年間20回以上実施。



【白馬村宿泊シンポジウム】

事業効果

- ・受講者による提案の一部は、具体的なプロジェクトとして、賛同する宿泊施設から取組を実施している。
- ・受講者同士の横の連携の強化と課題の共有が図られ、宿泊産業の活性化に向けた機運の醸成につながった。
- ・研修会及びシンポジウムの開催により、意欲ある宿泊施設と接点を持つことで、事業者支援策の拡充や人材育成につながった。
- ・本研修を通じて、宿泊事業者が自主的にイノベーションチームを結成し、令和5年度以降、その輪を広げながら継続して課題に取り組むこととなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後は、宿泊事業者が結成したイノベーションチームが継続して活動に取り組んでいくことから、団体としては、次の取組を行っていく。

- ① 環境的な持続可能～大自然に囲まれた白馬らしい宿づくり～
- ② 白馬村内宿泊事業者に対する同事業の啓発
- ③ 宿泊イノベーションチームの活動のPR

【選定のポイント】

宿泊施設同士の横のつながりの強化とビジョンの共有を図り、地域全体の宿泊産業のイノベーションの機運を高めた。今後も取組を継続することで、地域全体の宿泊産業の生産力や魅力が向上し、宿泊産業の活性化につながることを期待する。

団体名	白馬村観光課	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-85-0722	事業費	4,919,200円
		支援金額	3,064,000円

コロナ禍を乗り越える新たな直売所づくり

取組に至る背景・事業の目的

- 小海町農産物加工直売所では、より地域密着型の直売所づくりを進めるため、直売所の生産者を中心とした小海町農産物加工直売所の会をつくり、直売所の運営にも関わる体制を整備した。その後、平成 30 年度より直売所の会は指定管理者として小海町直売所の運営を任されている。
- コロナ禍で直売所の利用が少なくなったことを機に、観光客や地元住民に新鮮な野菜を提供できるよう、取り組みを行う。

事業内容

- ① 小海町農産物加工直売所独自 EC サイトの作成
EC サイトを設置することでコロナ禍においても町民が気軽に利用できる販売体制を整えた。
- ② 鮮度保持設備（DENBA）導入による新鮮野菜の展開
新鮮でおいしい野菜を町民に提供できるように費用対効果の高い鮮度保持設備を導入した。
- ③ 講演会の実施、直売所の会の組織体制強化
中山間地における直売所の重要性を多くの町民へ伝えるため産直新聞社代表取締役の毛賀澤明宏氏を講師に迎え講演会を行った。
アドバイザーを委託し、直売所がより良いものとなるよう指導をいただき相談会を実施した。



【講演会の様子】

事業効果

- ① EC サイトの構築により、来店しづらい状況であっても商品を購入できるようになった。コロナ禍においても直売所で買い物をしていただいたことで、売り上げを維持し生産者の生きがい失うことなく地域を活性化できた。
- ② 鮮度保持設備として「DENBA」を導入した。学校給食へ鮮度の高い野菜を届けられたとともに、鮮度が維持されたことで普段難しい冬場に葉物野菜を提供することが出来た。
- ③ 講演会により直売所の重要性を広く発信することが出来た。また、地域生産者が一丸となって直売所へ関われるよう一般社団法人化し組織強化を目指すことが決定した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

EC サイトで小海町の特産品を PR していき、ただ商品売るだけでなく栽培→加工→販売の六次産業化のサイクルを動かし更なる地域活性化を目指す。

DENBA による鮮度保持は夏場だけでなく、冬場の商品展開にも有効であることが分かったため、生産者、加工へ従事している町民のやりがいづくりに活用していく。

一般社団法人として、町民である生産者が一致団結して地元野菜による小海町の活性化を担っていきたい。

【選定のポイント】

コロナ禍においても農産物を売買しやすい環境を整えるため、農産物の WEB 販売システムを構築した。また、学校給食等に新鮮な野菜を提供できるよう、鮮度保持設備を導入した。さらに、直売所の重要性の認識を共有するための講演会等を開催した。

今後は、WEB 販売サイトを様々な媒体で紹介するなど、より利用者が増えるような取組が期待される。

団体名	小海町農産物加工直売所の会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	小海町大字豊里 107-1	事業費	1,047,140円
	https://www.koumi-chokubai.jp/	支援金額	837,000円

令和4年度「小諸の米」ブランド化事業

取組に至る背景・事業の目的

- 国内市場の縮小や海外との競争激化など、水稻を始めとした農業を取り巻く環境が大変厳しい時代を迎える中、市内で農業に携わる経営体が持続的に可能な農業を営み、豊かな生活を送れるかが課題となっている。
- 持続的な農業を目指すため、関係者・組織が連携し、「小諸の米」及び地域のお米の魅力向上を図り、収益力の高い農業構造を実現する。

事業内容

- ① 「令和4年度米づくり学校・小諸」と題し、米づくりの勉強会を6回開催した。
- ② 地域の機運の醸成のために以下の事業を実施した。
 - ・小諸市米飯官能鑑定士養成講座の開催
 - ・炊飯講習（出前講座）
- ③ 第24回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会 in 小諸を開催した。



【米・食味分析鑑定コンクール：国際大会】

事業効果

- ① 「令和4年度米づくり学校・小諸」
49名が登録し、延べ89名が講義を受講した。
- ② 機運醸成事業の実施
 - ・養成講座：36名を鑑定士に認定
 - ・炊飯講習（出前講座）：29名が参加
 - ・国際大会出品：35件
- ③ 第24回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会 in 小諸
 - ・出品点数：5,280
 - ・来場者数：3,000人（2日間合計）
 - ・市内生産者4名（3名+1校）が入賞し、特に国際総合部門で金賞を受賞した。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

事業3年目の集大成を迎えた今年度は、米・食味分析鑑定コンクールを招致し、3年越しの悲願としていた大会での入賞を果たすことができました。大会を一過性の盛り上がりで終わらせることなく、これまで培ってきた関係機関との連携そのものをレガシーとして、「地域のブランド米」を立ち上げ、今後も小諸の米のブランド化を力強く推進していきたい。

【選定のポイント】

「小諸の米」のブランド化を図るため、水稻生産能力のスキルアップのための講義、米飯官能鑑定士の養成、米・食味分析鑑定コンクールの開催等を実施し、コンクールでは国際総合部門で市内の生産者が金賞を受賞した。

今後も、生産者、行政、関係機関が連携し、米をはじめとした農作物のブランド化が期待される。

団体名 小諸市産業振興部農林課 連絡先 0267-22-1700 https://www.city.komoro.lg.jp/ noshin@city.komoro.nagano.jp	事業タイプ ソフト事業 事業費 14,185,198円 支援金額 5,000,000円
--	---

小谷村伊折地区の新地域特産物のブランド化推進事業

取組に至る背景・事業の目的

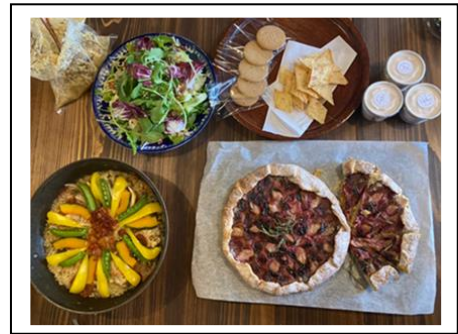
伊折農業生産組合では、発足以来、地区住民の協働により特産品の生産・販売を行い、地区の農産物のブランド化に取り組むとともに、地区の景観の維持や水田の維持に努めてきたが、組合員の高齢化等により働き手が減少しており、従来の生産の維持が難しくなっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により販売先が縮小しており、新たな販売方法への転換が必要となっている。

高齢化・過疎化に対応した持続可能な生産システムの構築及びウィズコロナ等に対応できる販売方法の検証を行い、新たな体制づくりに取り組む必要がある。

令和3年度には、比較的少ない労働力でも持続的に生産できる農産物として、ハーブ、エディブルフラワー等の試験栽培等を行った。

事業内容

- ・令和3年度に試験栽培したハーブ等の安定生産を目指すため、栽培指導を受け、畑の土壌改良・栽培検証を実施。規模：8a（令和4年度 3a追加）
- ・ハーブ等の商品化に向けて、村内や近隣町村の事業者と共同で加工品（ポタージュ、ジェラート等）を試作。
- ・伊折地区で生産している農産物とハーブを組み合わせ、キット商品を開発。
- ・伊折地区の体験施設「ゆきわり草」を活用し、エディブルフラワーやハーブを使った講座を実施（計2回）。



【ハーブ試作品試食会】

事業効果

- 栽培検証等
 - ・栽培方法及び栽培環境の検証を行い、栽培の管理がしやすくなった。
 - ・作業時間の短縮や人員の削減（人件費：令和3年度比10%減）につながった。
- 加工品試作
 - ・村内及び近隣町村の4事業者と共同でポタージュ、ジェラート、焼き菓子、お茶を試作。
- キット商品開発
 - ・レシピ開発及び試食会を行った。
- ハーブ等を活用した体験講座
 - ・第1回 10月1日 参加者6名 エディブルフラワーを使ったお菓子講座
 - ・第2回 10月26日 参加者6名（オンライン）ハーブを活用した手湯・足湯・健康手足つぼ講座

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

今後は、令和4年度の取組を活かし、引き続きハーブ等の安定生産に向けて、持続可能な土づくり・畑づくりを進める。

令和5年度は、遊休農地を開墾しさらに栽培面積を広げたり、令和4年度に試作したものの商品化に向けた仕上げやオリジナルハーブティー制作にも取り組む予定。また、新規顧客の確保につなげるため、体験の提供にも重点的に取り組んでいく。

【選定のポイント】

栽培の方法及び環境の検証、ハーブ等の加工品試作やキット商品の開発、ハーブ等を活用した体験講座を実施し、新農産物のブランド化を進めた。引き続き作業の効率化・省力化や顧客の確保に取り組み、高齢化や短時間労働にも対応した持続可能な農業モデルが構築されることを期待する。

団体名	伊折農業生産組合（小谷村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0261-82-2230	事業費	962,129円
	yukiwarisou.iori@gmail.com	支援金額	763,000円

若者と協働してつくる安全安心な超特別栽培米プロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

青倉受託作業班は、中山間地域で高齢化や転出により耕作できない田んぼを守る担い手として平成17年に結成され、共同でお米の生産を行っている。

これまでは、農地を守ることを主眼に置いていたが、これからは条件不利地域でも収益向上につなげるモデルを確立しなければと考え、移住した若者らと協働して、無農薬に近い米づくりと販売方法等を研究し、生産物の付加価値を高めて独自販売を行ない若者が定着できる条件づくりを目指す。

事業内容

1 「みらい協働会議」の開催と

「SNOW RICE」のブランディング等

- ・作業班メンバーと移住者等若者で「みらい協働会議」を開催し、生産するお米の栽培方法の研究や販売方法を検討。
- ・新デザインのパッケージ（米袋 5kg）を製作。
- ・料理研究家の交流ネットワークを活用した、SNSによるブランディングとPR活動。

2 「SNOW RICE」の生産と商品化

- ・田んぼ約30アールを作付け、1350kgの玄米を収穫。
※農薬使用を除草の1回（4成分）とした。
- ・色彩選別機、選別機を導入し最高品質の商品化。



【 みらい協働会議の様子 】



事業効果

- ・ほとんど接点のなかった移住者等の若者と、共通するテーマでお米を生産することにより、互いの信頼関係が生まれ、繋がりが深まった。
- ・安全安心な食糧や特別栽培米といった定義が明確になったが、価値観は人それぞれであり、ありのままを伝えていくスタイルが大事だということが共有された。
- ・若者の発想を商品づくりに活かせることは、今後地域の担い手として期待できる。
- ・移住者等とのマッチングモデルとして、移住希望者への参考や手助けとなる。
- ・移住希望者等への体験ツアー等の受け入れが可能となる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

次年度は生産量を増やし、独自販売の更なる拡大をめざしていききたい。また地域を担う団体として、これからも「米づくりと自然を活かした暮らしの創造」に取り組んでいきたい。

そのため、地域おこし協力隊の受け入れなどを進め、積極的な人材育成を行う。

【選定のポイント】

- ・生産者が移住者等の若者と協働することにより、互いの信頼関係を構築し、減農薬栽培の米をブランド化した。
- ・事業に協力した移住者自身が、新しい移住希望者を手助けし、体験ツアー等の受け入れも可能となった。

団体名	青倉受託作業班	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-2755-9776	事業費	3,285,920円
メール	aoisouko@ymail.ne.jp	支援金額	2,435,000円
H P	https://r.goope.jp/aoisouko/		

ともにつくる居場所づくり「農・福・観（環）」連携事業 地域のみんで創り出す！富士見町産じゅんかん育ち

取組に至る背景・事業の目的

当団体では 2019 年発足当初から自然豊かな富士見町の地域資源を活かし、同町に暮らす人、訪れる人が交流しながら楽しめる農をベースにした居場所づくりに取り組んできた。地域住民には参加者へ自身の得意なこと（農作業・料理・ものづくりなど）を参加者に教えることを通して役割ややりがいをもって元気に暮らし続けてほしい、また地域の魅力を再発見して訪れる人に伝えていってもらいたい、もう一方で、参加者には地域の人から教わりながら一緒に農作業や料理・ものづくりワークショップに取り組むことで富士見町での暮らしに関心をもってもらいたい、という思いで活動をしてきた。2022 年度はこうした活動を継続発展させていくための仲間づくりを目的に、これまで活動の一環として地域住民・参加者と一緒に取り組んできた「富士見町産じゅんかん育ち」の野菜やお米づくりが、環境・経済・社会的にどんな意義や影響があるのかを改めて学ぶための「じゅんかん育ち勉強会」を実施した。

事業内容

じゅんかん育ちの栽培に取り組む意義や効果、ゼロカーボンとの関連性を各分野の専門家による座学（【実施】4回【参加者】リアル29名＋オンライン21名）と野菜やお米の栽培、副資材の利用、関連施設の見学などの実践（【実施回数】21回【参加者】リアル102名）を通して学び、富士見町ならではの資源の循環利用モデル構築に地域協働で取り組んだ。また、本勉強会の中で得られたデータや情報を冊子「富士見町産じゅんかん育ちのすゝめ」にまとめて配布した。



【田んぼオーナー田植え後の集合写真】

事業効果

- ① 勉強会を通して一緒に学び、農作業を行うことで地域住民と参加者が交流を深めることができた。参加者延人数 152 名、講師 16 名。（勉強会参加費売上 59,500 円）
- ② 土壌の物理性・化学性を分析し総合評価点を比較。12 圃場のうち有機物を 2 年以上積極的に施用をした 6 圃場（19a）の平均は 67 点、慣行農法の 5 圃場の平均は 62.8 点となり、有機物施用の地力向上（炭素貯留量増）への有効性が確認できた。
- ③ 耕作放棄地・休耕田（19a）を試験圃場として活用。古民家 1 件を勉強会の会場として利用。また、農業資材としても汚泥発酵肥料・落葉・米ぬか・菌床・穀殻を堆肥化、さらに、町内の竹林から切り出した竹を竹炭にして畑に還元するなど、地域にあるものを活用して化学肥料の代替として循環利用することで廃棄物の減容や放置竹林の延伸防止に貢献。
- ④ ②③の実現により、じゅんかん育ちのコシヒカリの食味値が過去最高得点の 98 点となり、ふるさと納税の返礼品としても採択された（売上 39,500 円）。また、じゅんかん育ちのキタアカリを分析した結果、糖度・抗酸化力・ビタミン C・硝酸イオンいずれも平均値以上で、身体に美味しい農産物コンテス 2023 のじゃがいも部門にノミネートされ高評価を得ることができた。
- ⑤ 地域住民とあわせて町内外の多くの個人・団体が勉強会の講師や参加者として参画。こうした繋がりから地元企業と新たな農業体験企画の共催へも発展し、事業化の足掛かりとなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後はじゅんかん育ち勉強会を通して地域住民や有識者の方々から学んだ様々な知見をまとめた冊子「富士見町産じゅんかん育ちのすゝめ」を活用し、富士見町産じゅんかん育ちの栽培に取り組む仲間を増やし、環境と経済が両立する富士見町産ならではの資源循環型農業の実現を目指していく。また、勉強会や農業体験を交流コンテンツとして活用し、誰もが役割をもって活躍しながら楽しめる、農をベースにしたコミュニティの形成を目指す。こうした取り組みを持続可能で発展的な事業にしていけるような仕組みづくりが課題である。

【選定のポイント】

下水道汚泥由来の堆肥を使用した地域住民参加型の農業を通して、地域資源（ヒト・コト・モノ）を活かした独自の資源循環モデルを構築した点を評価した。今後もゼロカーボンに向けた取組の発展や農をベースにした地域活性化が期待される。

団体名 合同会社つくえラボ	事業タイプ ソフト事業
連絡先 0266-55-5882 / tsukuelab@gmail.com	事業費 1, 932, 334 円
ホームページ https://www.facebook.com/tukuelab	支援金額 1, 545, 000 円

長野県移住モデル地区のお試し移住の仕組み構築事業

取組に至る背景・事業の目的

南信濃地区は、著しい人口減少により高齢化、少子化が急速に進み、小中学校の児童生徒や保育園の園児数が減少し、近い将来、保育園・小中学校の存続すら心配される状況である。

このため、南信濃まちづくり委員会では、これらの課題を解決するために、地区の基本構想を令和2年に策定し、交流・関係人口の拡大を移住定住に結び付けていく取組を始めた。

これら移住定住を推進する母体として、地域住民、保育園、小中学校を始め、行政関係者による「南信濃1500委員会」を設立。同委員会を中心に、小学校等への山村留学の支援を始め、地区内の空き家を改修したお試し住宅の整備など進めてきている。また、令和3年8月には長野県移住モデル地区としての認定を受け、これも旗印にしながら地域内外へのPRも行っている。

令和4年度は、整備したお試し住宅を積極的に活用し、南信濃地区のファンを増やすといった交流・関係人口の拡大、地域内に多数ある空き家の活用など「お試し移住の仕組みづくり」を構築することを目的に事業を実施した。

事業内容

- ①地区内の空き家を「お試し住宅」として改修し、移住希望者がお試しで滞在できる環境整備について調査研究。
- ②移住・山村留学希望者へのPR・支援（新聞広告、チラシ作成、南信濃1500委員会サポーターユニホーム作成・のぼり旗作成）
- ③地域内の空き家を移住者向け住宅として活用していくために、先駆的に空き家対策を取組んでいる地域から講師を招き、地域内住民を対象とした学習会を開催した。
- ④保育園児を持つ世帯をターゲットにした、短期滞在型「保育園ショート留学」を試験実施。5家族園児7名の受入れを行った。
- ⑤移住希望者の相談事のワンストップ窓口となるように、ゲストハウスに移住コーディネーター配置した。



【空き家調査】

事業効果

- ①お試し住宅の調査研究から、地域の暮らしを体験したいと言ったニーズが潜在的にあることがわかった。また地域の四季よっての暮らし方を体験したいといった声もあり、繰り返し利用される方もいる。これらから、中長期的に滞在する施設とあわせ、移住希望者と地域の関係性を構築する仕掛けづくりが必要である。
- ②移住・山村留学希望者へのPR方法の一つとして中京方面へ当地域の「やまざと親子留学」の新聞広告を掲載したところ、名古屋方面からの問い合わせや留学希望家族の来訪が増え、令和4年度は2組の親子留学家庭の受入れを行うことができた。
また、「田舎に帰ろうプロジェクト」のチラシ内に当地域の介護・福祉スタッフの募集も含めたところ就業希望者とのマッチングに1組成功した。
- ③空き家対策研修会を開催して先進地の取り組みのノウハウを参考に、お試し移住に利用可能な物件の調査及び所有者との交渉などを進めることが出来た。
- ④地域内宿泊施設及び保育園と連携し、「保育園ショート留学」を実施した。1か月単位での希望もあるため、今後中期的な滞在プログラムと合わせ本格的な実施を図っていく。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

移住定住を進めるためにはきめ細やかなサポートが必要である。特に住む場所の確保は、民間賃貸物件がない地域としては大きな課題となっており、利用可能な空き家の調査と確保を進めることが重要である。利用可能な空き家については貸付又は譲渡可能な状態にするために、引き続き南信濃まちづくり委員会と連携して取組を進める。また、「やまざと親子留学」を令和5年度以降も継続するとともに、保育園児確保に向け、行政と連携した保育園のショート留学などの試みも実践していく。

【選定のポイント】

「お試し住宅」として空き家を改修し、空き家の活用モデルを作り上げた点、移住相談のワンストップ窓口となる移住コーディネーターの配置により、今後の移住者増加への寄与が期待できる点を評価した。

団体名 南信濃1500委員会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 0260-34-5111	事業費	553,500円
メールアドレス 南信濃自治振興センター minamisoumu@city.iida.nagano.jp	支援金額	442,000円

高丘の中心で環境を叫ぶ！TAKAOKA市場2022

取組に至る背景・事業の目的

高丘地区はインターチェンジがあり、高速道路周辺にゴミが大変多く、周辺環境の美化向上が必要となっている。また、コロナ禍により地域住民の交流機会が極端に薄れていた。

そこで、地域住民の世代間交流の場を設けて楽しみながら環境問題への啓発活動を行うことにした。さらに、実際に落ちているゴミの多さを子ども達に知ってもらうことで、環境問題についての意識向上も図る。

事業内容

イベント名:高丘の中心で環境を叫ぶ！TAKAOKA市場2022

開催日時 : 令和4年9月25日(日)

参加者人数:延べ600人

【イベント内容】

- ①ゼロ円マルシェ
- ②マーブルクレヨン大作戦
- ③環境ワークショップ
- ④こども縁日(おかしすくい、射的、もぐらたたき等)
- ⑤ステージ発表
アフリカンダンス、倍増戦士ぞ、高丘地区のお母さん/たかおかん
- ⑥明るい未来100人ゴミ拾い行進



【 たかおかんメンバー 】



【 ゴミ拾いの様子 】

事業効果

- ・ゴミ拾い行進には、イベント来場者・出演者・出店者・スタッフ総勢80名弱が参加した。
- ・参加者には「自分が望む地球と明るい未来」をプラカードに書いてもらうことで、環境問題への意識付けができた。
- ・小・中学生の若い世代には地域に落ちているゴミの多さに気付いてもらえ、身近な問題として考えてもらうきっかけになった。
- ・こども縁日の運営を、地域の子供達と老人クラブのお年寄りが行ったことで、新しいつながりが広がり賑わいを生み出す場となった。
- ・ご当地ヒーローショーでは、ゴミ拾いアプリ「ピリカ」を分かりやすく知ってもらうことができた。ゴミ拾い行進実施後にアプリを使用してもらえた。(ゴミ拾いアプリ「ピリカ」:世界中にゴミ拾い活動を発信するSNS)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

一過性の賑やかさではなく、環境問題への取組・世代間交流を継続していくための工夫が必要。今回のイベントはきっかけであり、今後の取組が重要になると考えている。

毎月、地域の母親が子どもと一緒に高丘地区のゴミ拾いを行い、環境美化活動とSDGs啓発活動を実施していく。また、たかおかん(高丘地区のお母さん)による地域のイベントでのゴミ拾い活動を続けていく。

【選定のポイント】

- ・ごみ拾いイベントを通じて、身近な環境問題やSDGsへの意識付け、世代間交流の機会をつくった。
- ・アプリやSNSの活用などにより、活動の担い手となりうる若い世代の関心を喚起した。取組の持続的な展開が期待できる。

団体名 高丘ゆるゴミ拾い部 連絡先 090-9660-7150 メールアドレス alii.105.mesulang@gmail.com	事業タイプ ソフト事業 事業費 655,424円 支援金額 479,000円
---	--